

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ・ヘルスプロモーション方法論 |
| 科目番号 | OAS0603 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春C水7,8 |
| 担当教員 | 久野 譜也, 山口 香, 高橋 義雄, 辻 大土, 渡部 厚一 |
| 授業概要 | スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な方法論について概説する。各自の研究計画の実現に向けて、研究デザインと科学的方法の客観性を担保する方法基礎論を理解し、文献や資料のオンライン検索の方法を学ぶ。また、社会調査法の一般的な手順を概説する。さらに、調査や実験データの分析法・検定法などの統計手法について、分析や検定結果の解釈法について文献を用いて理解したり、実際に統計解析ソフトを用いながら理解を深める。 |
| 備考 | 01EK002と同一 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業形態の補足 | オムニバス形式 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 研究デザインのたて方：久野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究とは ・研究テーマと問題の設定 ・研究方法の選択 <p>第2回 論文の書き方：山口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文完成までのロードマップ ・論文の全体像（序論、先行研究、仮説の設定、結果、考察、結論） <p>第3回 文作成のルール：高橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文の文章とは ・図や表の作成 ・文献検索の方法、引用の仕方 <p>第4回 疫学的手法の理解：辻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の手順 ・データの処理と基礎知識 ・調査データの分析 <p>第5回 倫理の考え方：辻、渡部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理とは ・倫理申請の提出方法 |
| 成績評価方法 | <p>レポートの成績を評価する。</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>指定教科書(一括購入予定)</p> <p>○健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方:出村慎一・山次俊介, 杏林</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 書院 1) 健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学:出村慎一、山次俊介, 杏林書院 2) 厚生労働省:臨床研究に関する倫理指針 |
| 参考書 | 1) 山際勇一郎・田中敏, ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法:教育出版 2) デズモンド・アレン・石村貞夫、すぐわかる統計用語:東京図書 3) 山内光哉, 心理・教育のための分散分析と多重比較:サイエンス社 4) 統計ソフト SPSS の解説書が、多数出版されている |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453(水上) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 欠席の場合の措置 | |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | なし |
| キーワード | スポーツ, 健康, 研究方法, 研究倫理 |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ・ヘルスプロモーション論概論 |
| 科目番号 | OATS011 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB水7,8 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。 |
| 備考 | 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK001と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、チームワーク力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。 |
| 授業計画 | 第1回 スポーツ・ヘルスプロモーション論オリエンテーション：菊 第2回 スポーツ・ヘルスプロモーション論オリエンテーション：久野 第3回 スポーツプロモーションの現代的課題と文献研究：菊 (プロモーション ライフスタイル 人間的生の充実 グループワーキング) 第4回 " 第5回 スポーツとメンタルヘルス：水上 (スポーツ精神医学、うつ病、認知症、予防、アスリートのメンタルヘルス) 第6回 " 第7回 日本のスポーツに求められるスポーツ・マネジメント：尾縣 (学校運動部 地域スポーツクラブ 一貫指導 競技スポーツ) 第8回 " 第9回 身体活動・運動によるヘルスプロモーション：柴田 (行動疫学、エコロジカルモデル、年代別) 第10回 座位行動の是正によるヘルスプロモーション：柴田 (行動疫学、エコロジカルモデル、年代別) 第11回 近代のスポーツイベント史と社会の関係：高橋 (メディア・イベント 商業化 社会問題 民営化 地域活性化) 第12回 " 第13回 健康格差とメンタルヘルス：辻 (健康の社会的要因、ソーシャル・キャピタル、健康格差対策) 第14回 " 第15回 オリンピックにおいてメダル獲得世界トップ5を目指すJOCの戦略を検証する：山口 (情報戦略 コーチング ナショナルトレーニングセンター スポーツの理念)) |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業計画 | <p>第16回 "</p> <p>第17回 スポーツ・ヘルスプロモーションと産業I・II：久野 (雇用 職域化 高齢化 ベンチャー企業 NPO)</p> <p>第18回 "</p> <p>第19回 スポーツ・ヘルスプロモーションに係わる文献とその動向に関する討議：菊 (スポーツとヘルスの融合、理論的検討、スポーツ言説、健康言説)</p> <p>第20回 "</p> |
| 成績評価方法 | <p>レポートあるいは発表の成績を評価する</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>担当教員より指定</p> <p>1. スポーツプロモーション論, 明和出版</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>(久野)火曜日 17時30分~18時15分</p> <p>東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382</p> <p>筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | スポーツプロモーション, スポーツマネジメント, ヘルスプロモーション, ストレスマネジメント, 研究倫理 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ健康研究方法論I |
| 科目番号 | OATS021 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春ABC秋A随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出する。 |
| 備考 | 01EK003と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出すること。 |
| 授業計画 | 1~10 回 : 各教員 <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文・特定課題報告書の研究テーマ設定のための文献や資料の収集と検討 ・ 研究計画の立案と討議及び指導 ・ 研究テーマの設定と研究テーマ届の提出 |
| 成績評価方法 | 学位論文テーマ届の提出 評価基準 P(可)、F(不可) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指示 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | (久野)火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 研究計画, 研究テーマ |

| | |
|---------------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康研究方法論II |
| 科目番号 | OATS032 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋A随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。 |
| 備考 | 01EK004と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができること。 |
| 授業計画 | 1~10 回： 各教員 発表と討議及び指導 (1)~(10) ・研究の実施 資料データの解析 プレゼンテーション法 ・学位論文中間発表会の終日参加 ・学位論文中間発表会における発表 |
| 成績評価方法 | 中間発表の評価 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | (久野)火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究実施、発表を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS021 スポーツ健康研究方法論I |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | プレゼンテーション |

| | |
|---------------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康研究方法論III |
| 科目番号 | OATS033 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春A随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。 |
| 備考 | 9月末修了予定者用 01EK005と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができること。 |
| 授業計画 | 1~10 回 : 各教員 発表と討議及び指導 (1)~(10) ・研究の実施 資料データの解析 プレゼンテーション法 ・学位論文中間発表会の終日参加 ・学位論文中間発表会における発表 |
| 成績評価方法 | 中間発表の評価 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | (久野)火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究実施、発表を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS021 スポーツ健康研究方法論I |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | プレゼンテーション |

| | |
|----------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論特講 |
| 科目番号 | OATS110 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋AB木7,8 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | 現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーション政策の課題について学習する。スポーツの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、現代社会におけるスポーツのポジティブ/ネガティブな作用を分析し、そこからスポーツプロモーションの基本理念を概説する。また、プロフェッショナルスポーツの成立と発展過程をも視野に入れつつ、文化としてのスポーツプロモーションのあり方について講ずる。 |
| 備考 | 01EK101と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーション政策の課題について学習する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 1-2回:スポーツプロモーション・ビジョンの検討</p> <p>第2回 3-4回:スポーツプロモーションの対象としてのスポーツ (近代スポーツを超えて)</p> <p>第3回 5-6回 スポーツビジョンづくりの視点と展開</p> <p>第4回 7-8 回 諸外国におけるスポーツライフスタイル(1) (ニュージーランド、イギリス)</p> <p>第5回 9-10 回 諸外国におけるスポーツライフスタイル(2)</p> <p>第6回 11-12 回 スポーツ組織の現状分析と課題(1) (NFの組織化における現状と課題)</p> <p>第7回 13-14 回 スポーツ組織の現状分析と課題(2) (レクリエーションおよび商業関連スポーツ団体)</p> <p>第8回 15-16 回 多様なスポーツライフスタイルの構想(1) (総合型クラブ、若者)</p> <p>第9回 17-18 回 多様なスポーツライフスタイルの構想(2) (バリアフリー、見るスポーツ)</p> <p>第10回 19-20 回 スポーツプロモーション・ビジョンの課題 (ビジョン 討論 専門性)</p> |
| 成績評価方法 | <p>総括レポート(50%)、予習レポート(30%)、ビデオレポート(10%)、授業中の質疑応答や討論の内容(10%)</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>菊幸一ほか編、スポーツプロモーション論、明和出版,2006.</p> <p>参考図書</p> <p>1) 菊幸一ほか編、スポーツ政策論、成文堂,2011.</p> <p>2) 菊幸一ほか編、現代スポーツのパースペクティブ、大修館書店,2006.</p> <p>3) 井上俊、菊幸一編、よくわかるスポーツ文化論改訂版、ミネルヴァ書房,2020.</p> <p>4) 菊幸一編、現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか、ミネルヴァ書房,2014.</p> <p>1. スポーツ政策論、成文堂,2011.</p> <p>2. 現代スポーツのパースペクティブ、大修館書店,2006.</p> <p>3. よくわかるスポーツ文化論改訂版、ミネルヴァ書房,2020.</p> <p>4. 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか、ミネルヴァ書房,2014.</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。</p> <p>随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。</p> <p>kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS111 スポーツプロモーション論演習1</p> <p>OATS112 スポーツプロモーション論演習2</p> <p>OATS113 スポーツプロモーション論実習</p> <p>OATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV</p> <p>OATS165 スポーツプロモーション研究方法論V</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | <p>無</p> |
| キーワード | <p>プロモーション スポーツ文化 スポーツ組織 スポーツ制度 スポーツライフスタイル</p> |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論演習1 |
| 科目番号 | OATS111 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的な事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。 |
| 備考 | 01EK112と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。 |
| 授業計画 | 第1回 スポーツプロモーションに対する各自のねらいと考え方、方法 第2回 スポーツの現代化とスポーツプロモーションとの関係 第3回 メディアスポーツ論 (1) (メディア、メッセージ、メタファー) 第4回 メディアスポーツ論 (2) (スポーツシンボリズム、神話作用) 第5回 メディアスポーツ論 (3) (メディアストーリー、メディアテキスト) 第6回 スペクテータースポーツ論 (1) (葬祭競技、祭典競技、奉納競技) 第7回 スペクテータースポーツ論 (2) (ゲームの保護、パトロネージ論) 第8回 スポーツの生産と消費 (1) (公共性、文化、聖性と生産/消費) 第9回 各自の政策立案モデルの提示と議論 第10回 各自の政策立案モデルの提示と議論 |
| 成績評価方法 | 1. 分担レポートの発表、課題をめぐる討議等に関する自己評価・相互評価を含めて、総合的に評価する (80%)。 2. スポーツプロモーションに関連する先行研究の検討状況を評価する (20%)。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |

| | |
|---------------------------------|--|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト： 菊幸一他編「現代スポーツのパースペクティブ」大修館書店,2006年 参考図書 1. 山川雄巳,「政策過程論」蒼林社出版,1980年 2. 菊幸一他編,「スポーツ政策論」成文堂,2011年 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。 随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS110 スポーツプロモーション論特講 0ATS112 スポーツプロモーション論演習2 0ATS113 スポーツプロモーション論実習 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論V |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | メディアスポーツ スペクテータースポーツ スポーツの公共性 政策立案モデル |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論演習2 |
| 科目番号 | OATS112 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB木7,8 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | グローバル化する世界のスポーツの文化状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツ文化状況を通じた多様なスポーツライフスタイルを構想して、スポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する。概念レベル、歴史レベル、社会レベルのスポーツプロモーションに関わる文化的課題を取り上げ、それらの課題を相互比較し、我が国のスポーツプロモーションの在り方を検討する。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的な分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、スポーツの文化的アイデンティティに基づく政策立案のモデル化について演習する。 |
| 備考 | 01EK113と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | グローバル化する世界のスポーツ状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツ文化状況を通じた多様なスポーツライフスタイルを構想して、スポーツ文化論から見たスポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する |
| 授業計画 | <p>第1回 1~2 回 スポーツ文化論の視点 (グローバル用語としての「スポーツ」、sportとsports、社会階級)</p> <p>第2回 3~4 回 近代以前と近代以後のスポーツ (ギリシャ・ローマ、中世、近代、暴力、近代的ライフスタイル)</p> <p>第3回 5~6 回 スポーツとメディア、経済 (マスメディア、SNS、消費文化、ツーリズム、商品化)</p> <p>第4回 7~8 回 スポーツと政治 (ナショナリズム、ジェンダー、社会階級、政策としてのスポーツ)</p> <p>第5回 9~10 回 スポーツと身体、テクノロジー (廊下と健康、精神と身体、スポーツ科学、eスポーツ、AI時代)</p> <p>第6回 11~12 回 スポーツと教育 (子ども、体育、遊び、部活、人間形成)</p> <p>第7回 13~14 回 スポーツと生活、地域 (狩りのスポーツ、自転車、地域主義、クラブ、市民マラソン、地域活性化)</p> <p>第8回 15~16 回 日本と諸外国のスポーツ文化(1) (相撲、ブドウ、運動会、国体ラジオ体操、甲子園、駅伝、集団主義)</p> <p>第9回 17~18 回 日本と諸外国のスポーツ文化(2) (イギリス、アメリカ、グローなるかの諸問題、スポーツイベント)</p> <p>第10回 19~20 回 プロフェッショナルスポーツとプロフェッショナリズム (高度化スポーツの価値、文化発展と公共責任、職業と社会貢献)</p> |
| 成績評価方法 | 1. 分担レポートの発表、課題をめぐる討議等に関する自己評価・相互評価を含めて、総 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 成績評価方法 | <p>括的に評価する (80%)。</p> <p>2. 政策モデルに関するレポートを評価する (20%)。</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:</p> <p>1) 井上俊・菊幸一編、よくわかるスポーツ文化論改訂版、ミネルヴァ書房、2020. 参考図書</p> <p>1) 菊 幸一他編、スポーツプロモーション論、明和出版、2006.</p> <p>2) 佐伯聰夫他、スポーツ・イベントの展開と地域社会形成、不昧堂出版、2000.</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。</p> <p>随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。</p> <p>kiku.kouichi.ga@u.tsukuba.ac.jp</p> <p>kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS110 スポーツプロモーション論特講</p> <p>OATS111 スポーツプロモーション論演習1</p> <p>OATS113 スポーツプロモーション論実習</p> <p>OATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV</p> <p>OATS165 スポーツプロモーション研究方法論V</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | グローバルスポーツ スポーツビジョン スポーツライフスタイル 現代スポーツ ポストモダン |

| | |
|----------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論実習 |
| 科目番号 | OATS113 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | <p>現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題を明らかにする。学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を、政策科学の視点から政策課題化し、それに基づく政策目標-政策対象-政策条件-政策計画のシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、政策展開に必要な環境的・物的・人的・文化的資源を査定し、当該政策実施における既存資源を評価し、過剰/不足資源を明確にする。さらに、明確化された不足資源の整備・開発を計画すると共に、政策展開の視点から見た有効資源のシステムをデザインし、具体的な政策モデルをシミュレーションする。</p> |
| 備考 | 01EK105と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題について明らかにしたことを発表する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 1-2 回 スポーツプロモーション実習の目的・方法・対象:ガイダンスと理論</p> <p>第2回 3-4 回 対象の選定と理由の検討 (1):その特徴と背景</p> <p>第3回 5-6 回 対象の選定と理由の検討 (2):実習目的と方法の明確化</p> <p>第4回 7-8 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (1):環境的資源の査定</p> <p>第5回 9-10 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (2):物的資源の査定</p> <p>第6回 11-12 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (3):人的資源の査定</p> <p>第7回 13-14 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (4):文化的資源の査定</p> <p>第8回 15-16 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (5):システムデザイン</p> <p>第9回 実習成果の発表内容に関するグループワーク:具体的な政策モデルのシミュレーション</p> <p>第10回 実習成果の発表と議論:学位論文への応用をめぐる課題の検討</p> |
| 成績評価方法 | <p>1. 分担レポートの内容や発表、課題をめぐる討議等に関する自己評価・相互評価を含めて、総括的に評価する(80%)。</p> <p>2. 学位論文作成の基礎資料として価値を評価する(20%)。</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:</p> <p>佐伯聰夫他,(2000), スポーツイベントの展開と地域社会形成, 不昧堂出版,2000.</p> <p>参考図書</p> <p>1. スポーツ組織の公共性と自立からみた課題と展望. 体育・スポーツ(2017) 経営学研究第 30 巻第 1 号,pp.65-81</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。</p> <p>随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。</p> <p>kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な実習態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS110 スポーツプロモーション論特講</p> <p>OATS111 スポーツプロモーション論演習1</p> <p>OATS112 スポーツプロモーション論演習2</p> <p>OATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV</p> <p>OATS165 スポーツプロモーション研究方法論V</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | <p>必要に応じて任用する</p> |
| キーワード | <p>現職経験 フィールドワーク 質的研究 文献調査 インタビュー調査 シュミレーション</p> |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツイベント論特講 |
| 科目番号 | OATS120 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春A金7,8,集中 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 01EK106と同一。 4/10,5/8 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントのマネジメントを考察し、地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能をマネジメントの視点で探究する。 |
| 授業計画 | 第1回 スポーツイベントとは (イベント, 概念, 理念, 意義) 第2回 オリンピック・システム (オリンピック) 第3回 スポーツイベントとスポーツの商業化 (商業科) 第4回 スポーツイベントのマネジメント (マネジメント) 第5回 スポーツイベントとスポーツ組織 (スポーツ組織, IF, NF, 組織委員会) 第6回 スポーツイベントとスポーツマーケティング (スポーツマーケティング) 第7回 スポーツプロモーション戦略の作り方 (地域政策, 公共性, スポーツプロモーション) 第8回 サービスマネジメントとスポーツマネジメント (産業政策, スポーツ産業, スポーツ市場, サービス) 第9回 スポーツファイナンス (スポーツ産業, スポーツビジネス, ファイナンス) 第10回 スポーツイベントとスポーツツーリズム (スポーツツーリズム) 第11回 スポーツ事故の危機管理 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業計画 | <p>(危機管理)</p> <p>第12回 大学とスポーツイベント (大学, NCAA, UNIVAS)</p> <p>第13回 教育としての学校スポーツイベント (学校, 育成, 教育)</p> <p>第14回 スポーツイベントの創造 (スポーツ施設, ハードインフラ)</p> <p>第15回 スポーツイベントと競争戦略 (競争戦略, マイケル・ポーター)</p> <p>第16回 スポーツ環境デザイン (スポーツ環境デザイン)</p> <p>第17回 スポーツ施設のデザインと運営 (施設, スマートスタジアム)</p> <p>第18回 スポーツイベントと国家・自治体戦略 (上からの公共性, 市民的公共性)</p> <p>第19回 スポーツプロモーション戦略: グループ発表前半 (近未来, 総括)</p> <p>第20回 スポーツプロモーション戦略: グループ発表後半 (近未来, 総括)</p> |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法および評価割合</p> <p>わが国におけるスポーツイベントの社会的役割についてグループワークし, スポーツイベントのプロモーションについてのグループ発表。(50%)</p> <p>毎回講義に積極的に参加し, 講義内容の知識をもとに, 諸外国を含めた身近なスポーツイベントの事例をさまざまな角度から分析してのディスカッション。(50%)</p> <p>2. 評価基準</p> <p>A+, A, B, C又はD</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <p>授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示</p> |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 菊 幸一:「近代プロ・スポーツ」の歴史社会学, 不昧堂出版 2) 佐伯聰夫ほか:スポーツ・イベントの展開と地域社会形成, 不昧堂出版 3) 松村和則ほか:メガ・スポーツイベントの社会学, 南窓社 4) 橋本純一ほか:現代メディアスポーツ論, 世界思想社 5) 小笠原正監修:導入対話によるスポーツ法学, 不磨書房 6) 原田宗彦ほか:スポーツ産業論第 6 版, 杏林書院 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分</p> <p>東京キャンパス 電話 03-3942-6390</p> <p>筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659</p> <p>オフィスアワーは特に定めないが、事前に連絡してから訪問すること</p> <p>体育科学系B棟 B505 03-3942-6390 takahashi.yoshio.gp at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的にディスカッションに参加し、これまでの自分の考え方が変わるような体験をしてください。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS121 スポーツイベント論演習1</p> <p>OATS122 スポーツイベント論演習2</p> |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 他の授業科目との関連 | OATS123 スポーツイベント論実習 OATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV OATS165 スポーツプロモーション研究方法論V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | スポーツイベント, スポーツ競技団体, プロスポーツクラブ, スポーツ経営人材, マネジメント, マーケティング, スポーツ産業, スポーツツーリズム, スポーツビジネス, 技術革新 |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツイベント論演習1 |
| 科目番号 | OATS121 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、経営学分野、特にイノベーション研究を取り上げ、その課題を演習する。国際、国、地域、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。 |
| 備考 | 01EK114と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、その課題を演習する。国際、国、地域、小規模集団、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能、マネジメントを理解しながら課題を演習する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 学習のねらいと方法について (本演習のねらい、研究の考え方、利用する概念、研究環境などを紹介する。)</p> <p>第2回 研究をはじめめるための問題意識 (自身の経験から問題意識を明確にする。先行研究のレビュー)</p> <p>第3回 問題意識に対する下調べとしての先行研究の扱い方 (自身の問題意識を文章化し、キーワードから先行研究を探索して、これまでわかっていることをまとめる)</p> <p>第4回 研究の方法論と方法 (方法論の検討、質的調査、量的調査等の適切な方法を考える)</p> <p>第5回 科学的調査とデータの分析 (調査手法、分析・調査結果の集計について学ぶ)</p> <p>第6回 量的調査の統計解析 (調査結果の統計分析の基礎を理解する)</p> <p>第7回 論文構想を発表する (自身の論文の構想を発表し、よりよいプレゼンテーションについて理解する)</p> <p>第8回 論文構想を発表 (他者の研究発表を聞いて理解し、適切なコメントや質問をする練習をする)</p> <p>第9回 研究の倫理 (研究倫理申請について理解する)</p> <p>第10回 論文の概要を作成する (自身の研究の概要を明らかにしてみる)</p> |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法</p> <p>1 分担レポートの発表内容および授業を通じた議論の深まりについて評価する。</p> <p>2 先行研究に関する検討を通じた自らのテーマと方法論に関する明晰性について評価する。</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| 成績評価方法 | 2.割合 1:50%、2:50% 3.評価基準 A+,A,B,C又はD |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト:特になし 参考図書は随時指定する |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 水曜日 17時30分-18時20分 東京キャンパス 電話 03-3942-6390 筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS120 スポーツイベント論特講 0ATS122 スポーツイベント論演習2 0ATS123 スポーツイベント論実習 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論V |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | スポーツ大会, 国際競技大会, マーケティング, マネジメント, 経営学, 社会学 |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツイベント論演習2 |
| 科目番号 | OATS122 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋AB金7,8 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | <p>スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究手法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。</p> |
| 備考 | 01EK115と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | <p>スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究手法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。</p> |
| 授業計画 | <p>第1回 学習のねらいと方法について (演習2のねらいと方法を理解する)</p> <p>第2回 研究と学生生活 (教員との関係、対人関係、アサーティブについて理解する)</p> <p>第3回 問題意識の構造化 (ブレインストーミングやKJ法を紹介し、問題意識を構造化してみる)</p> <p>第4回 先行研究の検討 (文献検索や文献レビューの方法について理解する)</p> <p>第5回 論文の基本コンセプトの理解し現状を報告する (現時点で考えている研究対象、枠組み、研究倫理について発表する)</p> <p>第6回 論文の構成と文章表現法 (科学論文における文章表現や基本構成を理解する)</p> <p>第7回 調査データの収集と分析 (量的研究、質問紙調査を用いる事例を紹介し、方法について理解する)</p> <p>第8回 調査データの収集と分析 (データ収集にむけてサンプリングし、回収したデータのコーディング、その後の解析ソフトSPSSを学ぶ)</p> <p>第9回 調査データの収集と分析 (質的研究の方法としてのフィールドワークを理解する)</p> <p>第10回 調査データの収集と分析 (質的研究の方法としてのインタビュー調査や参与観察を理解する)</p> <p>第11回 文献を抄読する (企業/学校スポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第12回 文献を抄読する (競技団体のマネジメントに関する文献の抄読)</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業計画 | <p>第13回 文献を抄読する (スポーツマネジメント人材に関する文献の抄読)</p> <p>第14回 文献を抄読する (メディアとスポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第15回 文献を抄読する (スポーツ産業に関する文献の抄読)</p> <p>第16回 文献を抄読する (プロスポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第17回 文献を抄読する (大学スポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第18回 文献を抄読する (女性とスポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第19回 文献を抄読する (スポーツ選手に関する文献の抄読)</p> <p>第20回 文献を抄読する (スポーツイベントマネジメントに関する文献の抄読)</p> |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法 1分担レポートの発表内容および授業を通じた議論の深まりについて評価する。 2先行研究に関する検討を通じた自らのテーマと方法論に関する明晰性について評価する。</p> <p>2. 割合 1:50%、2:50%</p> <p>3. 評価基準 A+, A, B, C又はD</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>1) M.E. ポーター:「競争の戦略」、ダイヤモンド社</p> <p>2) P. コトラー、A.R. アンドリーセン:「非営利組織のマーケティング戦略」</p> <p>3) 近藤隆雄:「サービスマネジメント入門」</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>水曜日 17時30分~18時20分</p> <p>東京キャンパス 電話 03-3942-6390</p> <p>筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS120 スポーツイベント論特講</p> <p>OATS121 スポーツイベント論演習1</p> <p>OATS123 スポーツイベント論実習</p> <p>OATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV</p> <p>OATS165 スポーツプロモーション研究方法論V</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | スポーツイベント, スポーツクラブ, スポーツビジネス, スポーツマーケティング |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツイベント論実習 |
| 科目番号 | OATS123 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究手法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。学生の現職経験から導かれるスポーツイベント問題を、スポーツプロモーションと地域形成の視点から政策課題化し、それに基づくスポーツイベント展開のマネジメントのシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、スポーツイベント編成に必要な諸エージェントと資源を査定し、当該イベント展開における関係エージェントと資源のシステム化をシミュレーションし、具体的なスポーツイベントの政策マネジメントモデルを企画・立案する。 |
| 備考 | 01EK110と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究手法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。 |
| 授業計画 | <p>第1回 実習対象の選定</p> <p>第2回 作業仮説の設定、調査方法の選定・準備 (作業仮説や研究課題を設定し、先行研究にあたる。また研究倫理について考える)</p> <p>第3回 調査実習 (研究計画を設計し、事前調査を行い資料収集にあたる)</p> <p>第4回 調査実習 (インタビュー、参与観察の準備をする)</p> <p>第5回 調査実習 (アンケート調査の方法について学ぶ)</p> <p>第6回 実査集計と報告書 (テープ起こし、質的データ分析の方法を学ぶ)</p> <p>第7回 実査集計と報告書 (コーディング、SPSS による集計について学ぶ)</p> <p>第8回 実査集計と報告書 (データの分析、統計検定について学ぶ)</p> <p>第9回 プレゼンテーション方法・準備</p> <p>第10回 実習報告会</p> |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法</p> <p>1 分担レポートの発表内容および授業を通じた議論の深まりについて評価する。</p> <p>2 先行研究に関する検討を通じた自らのテーマと方法論に関する明晰性について評価する。</p> <p>2. 割合</p> <p>1:50%、2:50%</p> <p>3. 評価基準</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| 成績評価方法 | A+,A,B,C又はD |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト:特になし 参考図書は随時指定する |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 水曜日 17 時 30 分-18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6390 筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的に実習に参加することを望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS120 スポーツイベント論特講 0ATS121 スポーツイベント論演習1 0ATS122 スポーツイベント論演習2 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論V |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | フィールド調査, 質問紙調査, インタビュー調査 |

| | |
|----------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ |
| 科目番号 | OATS164 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 備考 | 01EK116と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (1) (公共性、政策、政治課題)</p> <p>第2回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (2) (私的自由、生活課題、共同体)</p> <p>第3回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (3) (文化、身体、健康、体力)</p> <p>第4回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (1) (労働・体力政策課題)</p> <p>第5回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (2) (文化・レジャー政策課題)</p> <p>第6回 実践的研究事例 (1) (量的データ、質的データ)</p> <p>第7回 実践的研究事例 (2) (エスノメソドロジー、モノグラフ記述)</p> <p>第8回 実践的研究事例 (3) (歴史社会学的、文化社会学的)</p> <p>第9回 実践的研究事例 (4) (経済学的、経営学的)</p> <p>第10回 実践的研究事例 (5) (問題発見型、課題解決型、提案・問題解決型)</p> |
| 成績評価方法 | <p>修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。 随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。 菊 幸一 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS110 スポーツプロモーション論特講 OATS111 スポーツプロモーション論演習1 OATS112 スポーツプロモーション論演習2 OATS113 スポーツプロモーション論実習 OATS120 スポーツイベント論特講 OATS121 スポーツイベント論演習1 OATS122 スポーツイベント論演習2 OATS123 スポーツイベント論実習 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 政治課題 生活課題 健康政策 スポーツ政策 質的研究 量的研究 分析枠組み |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション研究方法論V |
| 科目番号 | OATS165 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 備考 | 9月末修了予定者用 01EK117と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | 第1回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (1) (公共性、政策、政治課題) 第2回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (2) (私的自由、生活課題、共同体) 第3回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (3) (文化、身体、健康、体力) 第4回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (1) (労働・体力政策課題) 第5回 スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (2) (文化・レジャー政策課題) 第6回 実践的研究事例 (1) (量的データ、質的データ) 第7回 実践的研究事例 (2) (エスノメソドロジー、モノグラフ記述) 第8回 実践的研究事例 (3) (歴史社会学的、文化社会学的) 第9回 実践的研究事例 (4) (経済学的、経営学的) 第10回 実践的研究事例 (5) (問題発見型、課題解決型、提案・問題解決型) |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付 | 指導教員より指定 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 資料等 | |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。</p> <p>随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。</p> <p>菊 幸一 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATS110 スポーツプロモーション論特講</p> <p>0ATS111 スポーツプロモーション論演習1</p> <p>0ATS112 スポーツプロモーション論演習2</p> <p>0ATS113 スポーツプロモーション論実習</p> <p>0ATS120 スポーツイベント論特講</p> <p>0ATS121 スポーツイベント論演習1</p> <p>0ATS122 スポーツイベント論演習2</p> <p>0ATS123 スポーツイベント論実習</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 問題意識 公共性 歴史社会学 文化社会学 産業社会学 論文作成 |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論特講 |
| 科目番号 | OATS210 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋B水7,8,集中 |
| 担当教員 | 尾懸 貢 |
| 授業概要 | 地域のスポーツクラブと学校の運動部、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについても講義する。地域のスポーツクラブと学校の運動部の共存共栄がわが国のスポーツの更なる発展には求められている。マネジメントの面から、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについても講義する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 01EK201と同一。 11/20,12/18 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 地域のスポーツクラブと学校の運動部、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについても講義する。 |
| 授業計画 | 第1回 1~2 回 スポーツマネジメントで学ぶこと (競技団体 学校 地域 JOC 日本体育協会) 第2回 3~4 回 現代スポーツにおける諸問題 (早期専門化 スポーツ離れ 競技人口減少 二極化) 第3回 5~6 回 国策としてのスポーツ (スポーツ立国戦略、スポーツ基本法) 第4回 7~8 回 学校体育から生涯スポーツへ (学習指導要領 運動部 授業 海外事情) 第5回 9~10 回 地域スポーツクラブにおけるマネジメント (指導者育成 施設 プログラム イベント) 第6回 11~12 回 タレント発掘からトップアスリート強化 (競技者育成プログラム 一貫指導 英才教育) 第7回 13~14 回 トレーニングのマネジメント I (ピリオダイゼーション コンディショニング) 第8回 15~16 回 トレーニングのマネジメント II (フィジカル メンタル テクニック) 第9回 17~18 回 競技会のマネジメント (競技役員 プログラム メディア 集客) 第10回 19~20 回 競技団体におけるマネジメント (スポンサー獲得 国際競技団体 委員会活動) |
| 成績評価方法 | 1. プレゼンテーションを評価する(50%) 2. レポートを評価する(50%) |

| | |
|---------------------------------|---|
| 成績評価方法 | 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト:特になし。必要な資料を配布する。 参考図書 1) 尾縣貢・青山清英監訳、競技力向上のトレーニング戦略、大修館書店 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時 00~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS211 スポーツマネジメント論演習1 OATS212 スポーツマネジメント論演習2 OATS213 スポーツマネジメント論実習 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 競技者育成, 指導者育成, トレーニング戦略, 学校体育, 運動部活動, トランスファー, 心技体, 超回復, インテグリティ |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論演習1 |
| 科目番号 | OATS211 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢, 安藤 梢 |
| 授業概要 | スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。 |
| 備考 | 01EK212と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 研究課題の設定 第3回 文献研究 (1) 文献検索の仕方、国内文献の検索 第4回 文献研究 (2) 海外文献の検索、文献リストの作成 第5回 文献研究 (3) 問題点の洗い出し、総説の作成 第6回 研究デザインの作成 (1) 研究目的の設定、研究手法 第7回 研究デザインの作成 (2) 仮設の立て方、研究の限界 第8回 研究デザインの作成 (3) 章立て、図表の作成 第9回 プレゼンテーション 第10回 研究デザインの作成 (4) |
| 成績評価方法 | 研究デザインに関するレポート(60%)とプレゼンテーション(40%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 必要な資料を配布する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |

| | |
|---------------------------------|--|
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS210 スポーツマネジメント論特講 OATS212 スポーツマネジメント論演習2 OATS213 スポーツマネジメント論実習 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 研究課題, 課題解決, 質的研究法, 量的研究法, 統計的手法, データベース |

| | |
|----------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論演習2 |
| 科目番号 | OATS212 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB火7,8 |
| 担当教員 | 尾縣 貢, 安藤 梢 |
| 授業概要 | スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。 |
| 備考 | 01EK213と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。 |
| 授業計画 | 第1回 研究法の紹介 (1) インタビュー法、テープ起こし 第2回 研究法の紹介 (2) アンケート法、データ集計 第3回 研究法の紹介 (3) 画像解析、統計手法 第4回 文献の抄読 (1) レビューテーマ、文献の収集 第5回 文献の抄読 (2) J-ステージ、国内文献 第6回 文献の抄読 (3) インパクト・ファクター、海外文献 第7回 文献の抄読 (4) 専門用語集の作成 第8回 文献の抄読 (5) レビューの作成 第9回 文献の抄読 (6) レビューの発表 第10回 まとめと評価 レビューからの研究課題の設定 |
| 成績評価方法 | 課題レポートによって評価する 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 必要な資料を配布する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS210 スポーツマネジメント論特講 OATS211 スポーツマネジメント論演習1 OATS213 スポーツマネジメント論実習 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 統計的手法, 多変量解析, 質的保証, KJ法, 半構造化, 仮説の検証 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論実習 |
| 科目番号 | OATS213 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢 |
| 授業概要 | 学生の現職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。 |
| 備考 | 01EK205と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学生の現職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。 |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：実習オリエンテーション実習課題の設定 ・集中実習：学校運動部活動、地域スポーツクラブの活動、競技大会などを視察し、現状を把握するとともに、マネジメントにおける課題点を明確にしたうえで、解決策を考える。 ・事後学習：レポートをまとめて、発表をする。 |
| 成績評価方法 | 実習報告書(70%)、プレゼンテーション(30%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 事前に実習課題の設定、事後にレポートを作成し、発表する。 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト、参考図書:特になし。必要に応じて資料を配布する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS210 スポーツマネジメント論特講 OATS211 スポーツマネジメント論演習1 OATS212 スポーツマネジメント論演習2 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー | 必要に応じて任用する |

| | |
|-----------------------|--|
| (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | |
| キーワード | ケーススタディ, アクション・リサーチ, 機縁法, PDCAサイクル, プレゼンテーションスキル |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論特講 |
| 科目番号 | OATS220 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春A集中; 春B金7,8 |
| 担当教員 | 山口 香 |
| 授業概要 | 国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナリズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育成・強化・支援」の各開発段階における物的・人的・文化的資源のシステム化として概説し、システム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 01EK206と同一。 4/17,4/24 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナリズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 総合戦略 (マネジメント, ストラテジー) 第3回 組織のあり方 (JOC, NF, JSC の構造及び役割) 第4回 ナショナルトレーニングセンター (1) (合宿, 国際交流) 第5回 ナショナルトレーニングセンター (2) (エリートアカデミー, コーチアカデミー) 第6回 タレント発掘と一貫指導 (1) (タレント, 地域の取り組み) 第7回 タレント発掘と一貫指導 (2) (指導理念の共有, 種目転向) 第8回 コーチングとは (コーチング, 理念) 第9回 一流プレイヤーの特徴 (理解, 信頼関係) 第10回 コーチに必要な資質 (公平性, 伝達能力, 探究心, ネットワーク) 第11回 キャリア教育の重要性 (セカンドキャリア) 第12回 オリンピックや W 杯など大会のマネジメント (役割分担, 情報収集・管理, メディア対策) 第13回 Team behind the team |

| | |
|---------------------------------|--|
| 授業計画 | (医科学サポート, 栄養, ドーピング) 第14回 リスクマネジメント (コンディショニング・安全) 第15回 情報戦略 (情報収集・選別・活用) 第16回 国際競争力 (IF, IOC) 第17回 コミュニケーションスキル (ネットワーク, 社交性, 国際性) 第18回 スポーツの目指すもの (スポーツ庁の役割・強化拠点) 第19回 2020のレガシーと今後の国際強化戦略 (金メダル戦略・重点強化) 第20回 まとめ |
| 成績評価方法 | レポートで評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキストは特になし。必要に応じて資料を配布する。 1. JOHN LYLE, SPORTS COACHING CONCEPTS 2. ジェラルド・ウリエ, ジャック・クルボアジェ, フランスサッカーのプロフェッショナル・コーチング 3. 河野一郎監修・勝田 隆著, 知的コーチングのすすめ |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 木曜日 17 時半~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 つくばキャンパス B405 電話 029-853-2687 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS221 高度競技マネジメント論演習1 OATS222 高度競技マネジメント論演習2 OATS223 高度競技マネジメント論実習 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論IV OATS265 スポーツマネジメント研究方法論V |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 国際競技力向上, マネジメント, 組織, コーチング |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論演習1 |
| 科目番号 | OATS221 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 山口 香, 安藤 梢 |
| 授業概要 | オリンピックにおいて競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。国際競技大会において競技者及びチームの最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論、スポンサー対応論等の総合的戦略として理解させ、オリンピック競技大会やワールドカップ等の具体的事例に対応する国際競技スポーツマネジメントのシミュレーションを行う。 |
| 備考 | 01EK214と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | オリンピック等の重要な国際大会において競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オリピックリ等、重要な国際大会に向けた強化計画 (ジュニア, シニア, 合宿, スケジュール)</p> <p>第3回 強化計画に関するの発表と討議</p> <p>第4回 オリピックにおける情報戦略 (情報収集, 現地視察, サポート)</p> <p>第5回 情報戦略に関するの発表と討議</p> <p>第6回 オリピックの選手選考 (選考会, ランキング, 実績の評価)</p> <p>第7回 選手選考に関するの発表と討議</p> <p>第8回 オリピック等の重要な国際大会における大会のマネジメント (選手村, 村外との連携, 情報管理)</p> <p>第9回 大会のマネジメントにおける発表と討議</p> <p>第10回 まとめ</p> |
| 成績評価方法 | <p>課題に対する発表(50%)、レポート(50%)で評価する。</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 特になし。必要な資料をその都度配布する。 |

| | |
|---------------------------------|--|
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 筑波キャンパス B405 電話 029-853-2687 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS220 高度競技マネジメント論特講 OATS222 高度競技マネジメント論演習2 OATS223 高度競技マネジメント論実習 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 国際競技力, チームマネジメント, 情報戦略 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論演習2 |
| 科目番号 | OATS222 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋AB火7,8 |
| 担当教員 | 山口 香, 安藤 梢 |
| 授業概要 | スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。 |
| 備考 | 01EK215と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 国際競技大会において競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なコーチングの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論等の総合的戦略として理解する。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 目標設定とモチベーション (目標設定の意義, 評価と分析) 第3回 目標設定について発表と討議 第4回 コーチの資質 (コミュニケーション能力, 技術分析, 伝達能力) 第5回 コーチの資質について発表と討議 第6回 大会におけるコーチング (情報管理, 声かけ, 対応力) 第7回 大会におけるコーチングについて発表と討議 第8回 ネットワークと情報収集 (情報収集力, ネットワーク, 国際性) 第9回 ネットワークと情報収集について発表と討議 第10回 まとめ |
| 成績評価方法 | 課題に対する発表(50%)、レポート(50%)で評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 必要な資料をその都度配布する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 筑波キャンパス B405 電話 029-853-2687 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | OATS220 高度競技マネジメント論特講 OATS221 高度競技マネジメント論演習1 OATS223 高度競技マネジメント論実習 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 国際競技力向上, チームマネジメント, 情報戦略, コーチング |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論実習 |
| 科目番号 | OATS223 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 山口 香 |
| 授業概要 | 学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。 |
| 備考 | 01EK210と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、知チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションすることを目標とする。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 授業概要と計画の確認 第2回 ケーススタディ 第3回 課題設定と課題解決のための仮説 第4回 フィールドワーク (1) 課題の抽出のための仮説 第5回 フィールドワーク (2) 課題についての検討およびディスカッション 第6回 フィールドワーク (3) 課題解決への取り組み 第7回 フィールドワーク (4) 課題解決取り組みへの評価 第8回 フィールドワーク (5) 外部関係者からの評価 第9回 プレゼンテーション ワーキンググループの発表 第10回 ディスカッション 全体ディスカッション、授業全体の総括 |
| 成績評価方法 | 実際に体験した事例を各自がまとめ、プレゼンテーションを行う。内容とプレゼンテーション能力を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト:特になし。必要な資料をその都度配布する。 参考図書:随時指定する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 木曜日 17 時 30 分~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 筑波キャンパス B405 電話 029-853-2687 |

| | |
|---------------------------------|---|
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS220 高度競技マネジメント論特講 OATS221 高度競技マネジメント論演習1 OATS222 高度競技マネジメント論演習2 OATS264 スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ OATS265 スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | 国際競技大会, 課題解決, マネジメント戦略 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ |
| 科目番号 | OATS264 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢, 山口 香 |
| 授業概要 | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。 |
| 備考 | 01EK216と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高める。 |
| 授業計画 | 第1回 1~2 回 研究活動としての特質 第2回 3~4 回 研究の進め方 第3回 5~6 回 文献の調査と収集 第4回 7~8 回 定量的研究 第5回 9~10 回 定性的研究 第6回 11~12 回 課題設定 第7回 13~14 回 データの収集 第8回 15~16 回 データの整理 第9回 17~18 回 考察のしかた 第10回 19~20 回 研究のまとめかた 研究発表の方法 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 1) David H. Clarke, Research Processes in Physical Education, Recreation, and Health, Prentice Hall 2) Jerry R. Thomas, Introduction to Research in Health, PE, Recreation and Dance, Human Kinetics |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456(尾縣) 東京キャンパス 538 電話 03-3942-6451(山口) |
| その他(受講生にのぞむ) | 積極的な研究姿勢を望みます。 |

| | |
|---------------------------------|--|
| ことや受講上の注意点等) | |
| 他の授業科目との関連 | OATS210 スポーツマネジメント論特講 OATS211 スポーツマネジメント論演習1 OATS212 スポーツマネジメント論演習2 OATS213 スポーツマネジメント論実習 OATS220 高度競技マネジメント論特講 OATS221 高度競技マネジメント論演習1 OATS222 高度競技マネジメント論演習2 OATS223 高度競技マネジメント論実習 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 事例研究, 実践研究, アンケート法, インタビュー法, アクション・リサーチ, PDCA |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント研究方法論V |
| 科目番号 | OATS265 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢, 山口 香 |
| 授業概要 | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。 |
| 備考 | 9月末修了予定者用 01EK217と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高める。 |
| 授業計画 | 第1回 1~2 回 研究活動としての特質 第2回 3~4 回 研究の進め方 第3回 5~6 回 文献の調査と収集 第4回 7~8 回 定量的研究 第5回 9~10 回 定性的研究 第6回 11~12 回 課題設定 第7回 13~14 回 データの収集 第8回 15~16 回 データの整理 第9回 17~18 回 考察のしかた 第10回 19~20 回 研究のまとめかた 研究発表の方法 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 1) David H. Clarke、Research Processes in Physical Education, Recreation, and Health、Prentice Hall 2) Jerry R. Thomas、Introduction to Research in Health, PE, Recreation and Dance, Human Kinetics |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456(尾縣) 東京キャンパス 538 電話 03-3942-6451(山口) |

| | |
|---------------------------------|--|
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究姿勢を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS210 スポーツマネジメント論特講 OATS211 スポーツマネジメント論演習1 OATS212 スポーツマネジメント論演習2 OATS213 スポーツマネジメント論実習 OATS220 高度競技マネジメント論特講 OATS221 高度競技マネジメント論演習1 OATS222 高度競技マネジメント論演習2 OATS223 高度競技マネジメント論実習 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 事例研究, 実践研究, アンケート法, インタビュー法, アクション・リサーチ, PDCA |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツの倫理と教育 |
| 科目番号 | OATS312 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春C集中 |
| 担当教員 | 深澤 浩洋, 長谷川 悦示 |
| 授業概要 | 我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理と教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができることを目標とする。我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理について、ルールやエトス、フェアプレイなどをめぐって講義する。また我が国のスポーツ教育政策の歴史を概観し、スポーツ教育の諸課題について講義する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 西暦奇数年度開講。 01EK321と同一。 7/24,7/31 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理や教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができる。 |
| 授業計画 | 第1回 スポーツの価値と倫理：深澤 第2回 スポーツと倫理問題の場：深澤 第3回 スポーツにおけるルールとエトス：深澤 第4回 スポーツにおける自律性・個の確立・ガバナンス：深澤 第5回 フェアネスの奨励-スポーツにできること：深澤 第6回 スポーツと学校体育：長谷川 第7回 学習指導要領の変遷：長谷川 第8回 体育教師の実践的指導力：長谷川 第9回 体育教師の教授行動分析：長谷川 第10回 体育教師ための授業評価システム：長谷川 |
| 成績評価方法 | 授業での取り組み:40%(長谷川分・深澤分各20%)、レポート:60%(長谷川分・深澤分各30%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に指定しない 参考図書 日本体育学会学校体育問題検討特別委員会(監)(2002)世界学校体育サミット.杏林書院:東京 フェアネスの表と裏.不昧堂:東京 レンク、H.・ピルツ、G. |

| | |
|--|---|
| <p>オフィスアワー等(連絡先含む)</p> | <p>月曜日 16 時 30 分~17 時 30 分 つくばキャンパス B508 電話 029-853-6341(深澤) A501 電話 029-853-6340(長谷川) 東京キャンパス連絡先 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| <p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p> | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| <p>他の授業科目との関連</p> | |
| <p>ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)</p> | <p>無</p> |
| <p>キーワード</p> | <p>ルール, エトス, 自律性, 学習指導要領, 実践的指導力, 教授行動分析</p> |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツプロモーションとビジネス |
| 科目番号 | OATS313 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋C木7,8 |
| 担当教員 | 仲澤 眞, 嵯峨 寿 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。スポーツプロモーションの視点から、プロスポーツの運営やスポーツメーカーのブランディングの事例を取り上げ、スポーツビジネスの現状と課題について講義する。 |
| 備考 | 西暦奇数年度開講。 01EK322と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 コミュニケーション論とプロモーション戦略：仲澤 (コミュニケーション過程、プル戦略、プッシュ戦略)</p> <p>第2回 メディアの多様化とプロモーション戦略：仲澤 (SNS、CGM、e-WOM、関係性マーケティング)</p> <p>第3回 プロサッカーにおけるプロモーション事例(1)：仲澤 (記号化、メッセージ、メディア・ミックス)</p> <p>第4回 プロサッカーにおけるプロモーション事例(2)：仲澤 (ジュピロ磐田、オピニオンボックス、CRM)</p> <p>第5回 プロ野球におけるプロモーション事例：仲澤 (東京ヤクルト、女性観戦者、代替的消費)</p> <p>第6回 パブリックリレーション活動：嵯峨 (ロールモデル教育、パブリシティー戦略)</p> <p>第7回 スポーツ用品企業のスポーツプロモーション：嵯峨 (ナイキ、ブランドコミュニケーション、cause-promotion)</p> <p>第8回 オリンピックスポンサー企業のオリンピック・プロモーション：嵯峨 (オリンピズム、スポンサーシップ、アクティベーション、creating shared values)</p> <p>第9回 バドミントンのプロモーションとビジネス：嵯峨 (ヨネックス、無気力試合、バドミントン・ミュージアム、バドミントン・アカデミー)</p> <p>第10回 ラグビーのプロモーションとビジネス：嵯峨 (ノーサイドの精神、アフターマッチファンクション、クラブハウス、預託金事業)</p> |
| 成績評価方法 | 毎時のリアクションペーパー・集団討議の内容(70%)、学期末レポート(30%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト よくわかるスポーツマーケティング、仲澤・吉田、ミネルヴァ書房、2017 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>参考図書</p> <p>ビジョナリーカンパニー、ジム・コリンズ、日経 BP 出版センター、1995</p> <p>新マーケティング・コミュニケーション戦略論、亀井昭宏ら、日経広告研究所、2009</p> <p>マーケティング原理 第 9 版 基礎理論から実践戦略まで、コトラーら、ダイヤモンド社、2003</p> <p>シュードッグ、フィル・ナイト、東洋経済新報社、2017</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。電子メール等により事前に連絡してから訪問して下さい。</p> <p>電子メールアドレス:</p> <p>仲澤(nakazawa.makoto.fb@u.tsukuba.ac.jp)、嵯峨(saga.hitoshi.fu@u.tsukuba.ac.jp)</p> <p>オフィス:仲澤(つくばキャンパス体育系棟B503)、嵯峨(つくばキャンパス体育系棟B504)</p> <p>東京キャンパス連絡先</p> <p>専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | <p>無</p> |
| キーワード | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | トップアスリートのトレーニング |
| 科目番号 | OATS314 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋C金7,8 |
| 担当教員 | 白木 仁, 河合 季信, 榎本 靖士 |
| 授業概要 | <p>トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング内容やバイオメカニクスの活用方法について学ぶトップアスリートの競技力向上のためのトレーニング及びバイオメカニクスを学ぶ。ジュニア期のトレーニング、年間計画、身体運動におけるバイオメカニクスの目的、活用法などについて考える。</p> <p>この講義は前半をトレーニング論(6回)、後半をバイオメカニクス論(4回)とし、それぞれ別の教員が担当する。</p> |
| 備考 | 01EK323と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング内容やバイオメカニクスの活用方法について学ぶ |
| 授業計画 | <p>第1回 トップアスリートのトレーニングの現状：白木 (反復練習、ストレングストレーニング)</p> <p>第2回 トップアスリートのトレーニングに関わるスタッフ：白木 (アスレティックトレーナー、コンディショニングコーチ)</p> <p>第3回 トップアスリートにおけるトレーニングのフレームワーク(1)：河合 (パフォーマンスパスウェイ、オリンピック・パラリンピックサイクル、テクノロジーの活用)</p> <p>第4回 トップアスリートにおけるトレーニングのフレームワーク(2)：河合 (パフォーマンスパスウェイ、オリンピック・パラリンピックサイクル、テクノロジーの活用)</p> <p>第5回 スポーツをバイオメカニクスの基礎知識、手法、データの解釈方法について解説する(1)：榎本 (Kinematics、kinetics、スポーツバイオメカニクス研究法)</p> <p>第6回 スポーツをバイオメカニクスの基礎知識、手法、データの解釈方法について解説する(2)：榎本 (Kinematics、kinetics、スポーツバイオメカニクス研究法)</p> <p>第7回 スポーツバイオメカニクスからみたスポーツ技術のとらえ方、技術に関する研究、データのフィードバックについて解説する(1)：榎本 (スポーツ技術、動作の最適化ループ、トップアスリート、国際競技会、データフィードバック)</p> <p>第8回 スポーツバイオメカニクスからみたスポーツ技術のとらえ方、技術に関する研究、データのフィードバックについて解説する(2)：榎本 (スポーツ技術、動作の最適化ループ、トップアスリート、国際競技会、データフィードバック)</p> <p>第9回 競技力向上のためのトレーニングの考え方：白木 (スキルトレーニング、コンディショニング)</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| 授業計画 | 第10回 競技力向上のためのトレーニング方法：白木 (コーディネーショントレーニング) |
| 成績評価方法 | 出席・参加意欲 (50%), レポート (50%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | つくばキャンパス D621 電話 029-853-2667 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業科目名 | トップコーチング |
| 科目番号 | OATS315 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋C火7,8 |
| 担当教員 | 仙石 泰雄, 岡田 弘隆, 川村 卓, 吹田 真土, 小井土 正亮 |
| 授業概要 | 世界のトップをめざした競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチに求められる役割や資質について考える。 |
| 備考 | 01EK324と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | トップをめざした競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。 |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス/コーチの役割・個人記録系スポーツの事例：仙石 第2回 “ 第3回 団体バット球技系スポーツの事例：川村 第4回 “ 第5回 個人&団体ラケットバット系スポーツの事例：吹田 第6回 “ 第7回 個人格闘系スポーツの事例：岡田 第8回 “ 第9回 団体球技系スポーツの事例：小井戸 第10回 “ |
| 成績評価方法 | 授業における積極的な参加(20%)、期末レポート(80%)によって評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特になし 参考図書 講義内で各担当者から紹介 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 世話人教員:仙谷泰雄 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー | 無 |

| | |
|-----------------------|----------------|
| (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | |
| キーワード | コーチング, トップスポーツ |

| | |
|----------------------|--|
| 授業科目名 | 生涯スポーツのトータルマネジメント |
| 科目番号 | OATS316 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春C火7,8 |
| 担当教員 | 坂本 昭裕, 平山 素子, 澤江 幸則, 寺山 由美, 本谷 聡 |
| 授業概要 | 競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めることを目標にする。競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ野外教育・スポーツ、舞踊、体操などの歴史や教育的側面を踏まえた最新のコーチングやマネジメントについて学ぶ。また、障害者スポーツについての現状と課題を検証し、理解を深める。 |
| 備考 | 01EK325と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めること。 1)野外教育マネジメントについて基礎的な知識を理解する。 2)ダンスの多様性と歴史を理解し、身体のコミュニケーションについて理解できる。 3)生涯スポーツとしてのダンスにおける指導者の進め方を理解する。 4)障害のある人や子どものスポーツ実践を支えるための方法論について、あだぶてっど・スポーツ的視点から理解する。 5)体操について理解を深めこれからの体操のあり方について検討できる。 |
| 授業計画 | 第1回 不登校児や発達障害児， 非行少年などの野外教育プログラムのマネジメントを取り上げる。：坂本 (キャンプ 冒険教育プログラム 心のマネジメント) 第2回 “ 第3回 ダンスの多様性と歴史を紹介し， 身体発のコミュニケーション方法を様々な角度から検証する。：平山 第4回 “ 第5回 30 代から 80 代における生涯スポーツでのダンスの実態を取り上げ， 指導者と参加者がどのような点に留意して活動を進めているか検討する。：寺山 第6回 “ 第7回 障害のある人や子どものスポーツ実践の可能性を示すとともに， その実践を支えるための方法論について， アダプテッド・スポーツ的観点から検討する。：澤江 (アダプテッド・スポーツ 日常化・社会化 障害観) 第8回 “ 第9回 体操についての国内外の映像や資料を題材として， これからの体操のあり方について検討する。：本谷 (体操， 体づくり運動， 動きづくり， 体づくり) 第10回 “ |
| 成績評価方法 | レポート， 授業への貢献度 (出席， 発言など) から総合的に評価する 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト 特になし</p> <p>参考図書 各教員が必要に応じて紹介する。</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>月曜日 15 時 ~ 16 時半 (5 限時)</p> <p>つくばキャンパス A404 電話 029-853-6361</p> <p>東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | 国際スポーツビジネス論 |
| 科目番号 | OATS352 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋BC集中 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | 今日グローバルに展開される国際スポーツビジネスについてヨーロッパ、アメリカ、アジア、途上国の現状を理解し、それぞれの地域に必要な高度な知識、ビジネススキル、ビジネスマインドを学ぶ。また国際スポーツビジネスに必要なマネジメント能力を非常勤講師や招聘する実務家を通じて学び、グループごとに示されたテーマに沿った分析を行い、グループ発表することでコミュニケーションスキルも身に着ける。 |
| 備考 | 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK320と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 地球規模で展開される国際的なスポーツビジネスにおける高度な専門的な知識を、スポーツの権利保持者であるスポーツ団体やプロリーグ、プロクラブの立場と、スポーツの価値を本業に活かす企業の側の両側面から把握できるようになる。また国際的なスポーツビジネスのビジネスモデル、実務上で必要なビジネススキルやビジネスマインドを活用したマネジメント能力を身につけることで国際社会にスポーツビジネスを通じて貢献できる意識をはぐくむことができる。 |
| 授業計画 | <p>第1回 (1) スポーツの国際化の現状について 国際化するスポーツを社会科学的にとらえる意味を学び、今後必要となる視点、分析方法を解説する。</p> <p>第2回 (2) ヨーロッパの国際的なビジネス概論 東西冷戦以降のヨーロッパの政治・経済情勢とスポーツビジネスの関り、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第3回 (3) アメリカのスポーツの国際的なビジネス概論 アメリカのプロスポーツを中心に、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第4回 (4) アジアにおけるスポーツビジネス概論 経済成長率の高いアジアにおいて果たすスポーツの役割について学び、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第5回 (5) 途上国のこれからのスポーツビジネス概論 南米、アフリカなど今後発展が期待される地域において果たすスポーツの役割について学び、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第6回 (6) 日本企業と国際スポーツビジネス概論 国際的なビジネス展開する日本企業とスポーツビジネスの関係について学び、日本企業に必要なビジネススキルやビジネスマインドを概説する。</p> <p>第7回 (7) 国際的なスポンサーシップ概論 国際的なスポンサーシップの高度な専門的な知識をスポーツの権利保持者であるスポーツ団体やプロリーグ、プロクラブの立場と、スポーツの価値を本業に活かす企業の側の両側面から概説する。</p> <p>第8回 (8) オリンピック・世界選手権ビジネス概論 国際的なメガスポートイベントを取り上げ、国際ビジネスの視点から理解し、国際ス</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| 授業計画 | <p>ポーツイベントのスポーツビジネスを通じて国際社会に貢献する可能性を概説する。</p> <p>第9回 (9) プロジェクトについてグループ発表1</p> <p>グループごとに割り当てられた国際スポーツビジネスの分析結果について発表する。</p> <p>第10回 (10) プロジェクトについてのグループ発表2</p> <p>グループごとに割り当てられた国際スポーツビジネスの分析結果について発表する。</p> |
| 成績評価方法 | <p>1評価方法</p> <p>講義後に毎回実施するコメントシートおよび最終レポート課題による評価を行う。</p> <p>2割合</p> <p>毎回の小コメントシート30%、最終レポート70%</p> <p>3評価基準</p> <p>(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <p>授業後に毎回指定した教科書や報告書を事前に読んでおくこと、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>教科書は適宜指定する。</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>東京キャンパス文京校舎533棟 金曜日</p> <p>それ以外の日時を希望する場合は、前もって、emailで連絡のこと</p> <p>電話番号:03-3942-6390</p> <p>e-mailアドレス:</p> <p>takahashi.yoshio.gp@u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的に授業に参加し、討論に参加すること、グループワークでの学生間の密なコミュニケーションによる質の高い発表資料の作成を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS110 スポーツプロモーション論特講</p> <p>OATS120 スポーツイベント論特講</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | <p>無</p> |
| キーワード | <p>国際スポーツ組織, 国際オリンピック委員会, スポンサーシップ, テレビ放映権, チケット, ホスピタリティ, マーケティング, セールプロモーション, スポーツプロモーション, スポーツイベント</p> |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論特講 |
| 科目番号 | OATS410 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB火7,8 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | 健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。我が国及び諸外国における運動を中心としたヘルスプロモーションのための政策課題について概説し、その目的、内容、方法等の特徴を明らかにするとともに、我が国における今後のヘルスプロモーションの政策課題の方向性について講義する。 |
| 備考 | 01EK401と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。 |
| 授業計画 | <p>第1回 ヘルスプロモーションとは (I) (WHO オタワ憲章 健康日本 21 ソーシャルスキル)</p> <p>第2回 ヘルスプロモーションとは (II) (オンリーワン社会 ヘルシーカンパニー 健康家族)</p> <p>第3回 身体的・精神的に健康でない状態 (身体的疾病 精神的病態)</p> <p>第4回 社会的に良好でない状態 (個人 コミュニティ 地方 国)</p> <p>第5回 ヘルスプロモーションにおける健康教育の役割 (I) (健康観 指導観)</p> <p>第6回 ヘルスプロモーションにおける健康教育の役割 (II) (健康リテラシー)</p> <p>第7回 わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 I. 日本の健康水準の現状分析と世界的潮流 (平均寿命, 健康寿命, 健康価値観の多様化, 目標志向型健康増進施策)</p> <p>第8回 わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 II. 基本戦略 (展望, 理念, 目的, 目標)</p> <p>第9回 わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 III. 目標の設定と評価の基準 (健康課題, 健康サービスの有効性, 経済的効率)</p> <p>第10回 わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 IV. 地方計画の策定と健康情報システムの確立 (重点政策化, 実施主体の役割, マスメディア, 科学的根拠)</p> <p>第11回 わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 V. 人生の各段階の課題 1 幼年, 少年及び青年期 (健康教育, 事故対策, 早世, 身体活動)</p> <p>第12回 わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 VI. 人生の各段階の課題 2 壮年, 中年及び高年期 (生活機能, 生活習慣病, 防衛体力, 身体活動)</p> <p>第13回 自治体における健康政策の理解 I. 県での健康づくり戦略 (茨城県健康いばらき</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業計画 | <p>21 プランを例にして) (茨城県の特性と課題, 支援機能, 県民運動)</p> <p>第14回 自治体における健康政策の理解 II. 先進的健康づくり実施市町村の健康政策1(茨城県大洋村) (超高齢社会, 医療費, 環境整備)</p> <p>第15回 自治体における健康政策の理解 III. 先進的健康づくり実施市町村の健康政策2(埼玉県小鹿野町) (介護制度, 疾病第一主義からの脱却)</p> <p>第16回 健康な地域づくりを達成する策定方法 I. 産・官・学・民における役割の整理と科学的根拠に基づく健康政策目標の立て方 (自治体の総合計画, 関係部局・団体・機関との連携, 達成目標の共有化)</p> <p>第17回 健康な地域づくりを達成する策定方法 II. 自然科学的手法による健康政策の評価法 (生活機能測定法, 身体活動量, 栄養摂取量)</p> <p>第18回 健康な地域づくりを達成する策定方法 III. 社会科学的手法による健康政策の評価法 (事業への投入指標, 事業評価, 地域効果)</p> <p>第19回 健康な地域づくりを達成する策定方法 IV. 医療経済効果的視点による健康政策の評価法 (医療費とヘルスプロモーションの関係, 医療費と運動教室, 費用効果分析)</p> <p>第20回 健康な地域づくりを達成する策定方法 V. まとめ</p> |
| 成績評価方法 | <p>レポートによる</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <p>授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示</p> |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健指導に求められる個別運動プログラム作成・実践ガイド-専門職が指導するメタボリックシンドローム・介護予防プログラムとは- 久野譜也(編)、杏林書院 2) 介護予防のための筋力トレーニング指導法 久野譜也(編)、NAP <p>参考図書:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ウエルネスサポーター教本 久野譜也(監)、日経 BP 社 2) 地域における高齢者の健康づくりハンドブック 松田光生他(編)、NAP 3) 健康遺伝子をオンにしよう! 久野譜也、サンマーク出版 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>火曜日 17時30分-18時15分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS411 ヘルスプロモーション論演習1 OATS412 ヘルスプロモーション論演習2 OATS413 ヘルスプロモーション論実習</p> |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 健康増進政策, ヘルスリテラシー, 健康日本21 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論演習1 |
| 科目番号 | OATS411 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。 |
| 備考 | 01EK412と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 課題の提示、グループ分け 第2回 課題に即した資料内容の検討と整理 (1) 第3回 課題に即した資料内容の検討と整理 (2) 第4回 資料内容の検討の発表と方向性の確認 (1) 第5回 資料内容の検討の発表と方向性の確認 (2) 第6回 第 4,5 回の発表により明らかになった課題の検討 (1) 第7回 第 4,5 回の発表により明らかになった課題の検討 (2) 第8回 資料内容の検討の発表により明らかになった課題の検討 第9回 最終発表会のためのプレゼンの準備 (パワーポイントの作成) 第10回 まとめの講義 |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト: 1) ヘルスサポートの方法と実践 田中滋/小林篤/松田晋哉 (編)、東京大学出版会 2) 介護予防のための筋力トレーニング指導法 久野譜也 (編)、NAP 参考図書: 1) 健康遺伝子をオンにしよう! 久野譜也、サンマーク出版 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点) | 積極的な受講態度を望みます。 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 等) | |
| 他の授業科目との関連 | OATS410 ヘルスプロモーション論特講 OATS412 ヘルスプロモーション論演習2 OATS413 ヘルスプロモーション論実習 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ヘルスプロモーション, ヘルスリテラシー, 健康教育 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論演習2 |
| 科目番号 | OATS412 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋AB火7,8 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。 |
| 備考 | 01EK413と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 授業の到達目標(学修成果) | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 課題の提示、グループ分け 第2回 課題に即した資料内容の検討と整理 第3回 資料内容の検討の発表と方向性の確認 第4回 第3回の発表により明らかになった課題の検討(1) 第5回 最終発表会のためのプレゼンの準備(パワーポイントの作成)(1) 第6回 最終発表会のためのプレゼンの準備(パワーポイントの作成)(2) 第7回 健康施策に関する課題に対する発表と討議 1-2 班 第8回 健康施策に関する課題に対する発表と討議 3-4 班 第9回 健康施策に関する課題に対する発表と討議 5-6 班 第10回 まとめの講義 |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17時30分~18時15分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点) | 積極的な受講態度を望みます。 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 等) | |
| 他の授業科目との関連 | OATS410 ヘルスプロモーション論特講 OATS411 ヘルスプロモーション論演習1 OATS413 ヘルスプロモーション論実習 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 健康課題, 健康寿命, 健康サービス |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論実習 |
| 科目番号 | OATS413 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | 地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験を重視し、そこから導かれる実践的な課題を取り上げ、それをシステムの課題に洗練するとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインを実習する。 |
| 備考 | 01EK405と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。 |
| 授業計画 | 第1回 集中 1:オリエンテーション、計画立案 第2回 集中 2:現地実習 第3回 集中 3:発表と討議、まとめ |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト: 1) ヘルスサポートの方法と実践 田中滋/小林篤/松田晋哉(編)、東京大学出版会 2) 介護予防のための筋力トレーニング指導法 久野譜也(編)、NAP 参考図書: 1) 健康遺伝子をオンにしよう!, 久野譜也, サンマーク出版 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17時30分-18時15分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS410 ヘルスプロモーション論特講 OATS411 ヘルスプロモーション論演習1 OATS412 ヘルスプロモーション論演習2 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー | 必要に応じて任用する |

| | |
|-----------------------|-----------------------|
| (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | |
| キーワード | 科学的根拠, 関係機関との連携, 評価基準 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論特講 |
| 科目番号 | OATS420 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋A水7,8,集中; 秋B集中 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 行動科学の考え方を応用して、健康行動（主に、身体活動や運動）を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 01EK406と同一。 10/30,11/27 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 行動科学の考え方を応用して、健康行動（主に、身体活動や運動）を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。 |
| 授業計画 | 第1回 1・2 回: ガイダンス・健康づくり研究の体系化-「行動疫学」の枠組みの応用- (我が国の健康課題、行動疫学) 第2回 3・4 回: 健康開発に活かす「行動科学」の理論・モデル (行動変容、学習理論、健康信念モデル) 第3回 5・6 回: イヌの飼育、イヌの散歩とヒトの身体活動 (潜在的リソース活用) 第4回 7・8 回: 健康開発に活かす行動変容技法 (変容ステージ、意思決定バランス、セルフ・エフィカシー) 第5回 9・10 回: 健康行動と環境の科学 (エコロジカルモデル、ポピュレーションアプローチ) 第6回 11・12 回: 子どもの身体活動を増やす効果的な取り組み (介入場面・時間、環境介入) 第7回 13・14 回: 座位行動研究の最前線 (新たな健康行動、座りすぎ) 第8回 15・16 回: 介護予防-運動器の機能向上および運動器疾患対策 1- (ハイリスクアプローチ、評価、普及戦略) 第9回 17・18 回: 介護予防-運動器の機能向上および運動器疾患対策 2- (ポピュレーションアプローチ、ソーシャルマーケティング) 第10回 19・20 回: がん予防-ヘルスコミュニケーションおよびヘルスリテラシーの役割- (健康情報提供・普及) |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(70%)及びレポート(30%)により評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 随時 事前にメールにて連絡をお願いします。 shibata.ai.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS421 健康開発プログラム論演習1 OATS422 健康開発プログラム論演習2 OATS423 健康開発プログラム論実習 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 健康課題, 行動変容, ハイリスクアプローチ, ポピュレーションアプローチ, 環境, ヘルスコミュニケーション, ヘルスリテラシー |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論演習1 |
| 科目番号 | OATS421 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。 |
| 備考 | 01EK414と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。 |
| 授業計画 | 第1回 発表と討議 (情報検索) 第2回 発表と討議 (論文読解 1:抄録、背景、方法) 第3回 発表と討議 (論文読解 2:結果、考察) 第4回 発表と討議 (統計分析) 第5回 発表と討議, まとめ (プレゼンテーション) |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(50%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(30%)により評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 随時 事前にメールにて連絡をお願いします。 shibata.ai.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS420 健康開発プログラム論特講 OATS422 健康開発プログラム論演習2 OATS423 健康開発プログラム論実習 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 行動疫学, 疫学的アプローチ |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論演習2 |
| 科目番号 | OATS422 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB金7,8 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する(ディレクトリーディング)。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。 |
| 備考 | 01EK415と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション (演習の目標、進め方) 第2回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 1) 第3回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 2) 第4回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 3) 第5回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 4) 第6回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 5) 第7回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 6) 第8回 発表と討議 (ディレクトリーディング 選択論文 7) 第9回 発表と討議 (実践的な課題の背景、目的の立案) 第10回 発表と討議, まとめ (実践的な課題の方法の立案) 第 2-8 回に関しては、毎回受講学生が自ら興味のあるテーマに関連する学術論文を推敲し、その概要(意義や課題、使用している方法論等)について発表する。また、その内容に関して議論や専門的知識を提供していく。 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(70%)及びレポート(30%)により評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 随時 事前にメールにて連絡をお願いします。 shibata.ai.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点) | 積極的な受講態度を望みます。 |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 等) | |
| 他の授業科目との関連 | OATS420 健康開発プログラム論特講 OATS421 健康開発プログラム論演習1 OATS423 健康開発プログラム論実習 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 疫学的アプローチ, 効果, 実行可能性 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論実習 |
| 科目番号 | OATS423 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。学生の現職経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。 |
| 備考 | 01EK410と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンストとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。 |
| 授業計画 | 第1回 集中 1:オリエンテーション, 計画立案, 調査設計 第2回 集中 2:フィールド調査 第3回 集中 3:発表と討議, まとめ |
| 成績評価方法 | 実習状況(70%)、レポート(30%)により評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 随時 東京キャンパス 537 電話 03-3942-6455 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS420 健康開発プログラム論特講 OATS421 健康開発プログラム論演習1 OATS422 健康開発プログラム論演習2 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | アクティブラーニング, 行動変容 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ |
| 科目番号 | OATS464 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也, 柴田 愛 |
| 授業概要 | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。 |
| 備考 | 01EK416と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | 第1回 集中 1:オリエンテーション, 計画立案, 調査設計 第2回 集中 2:フィールド調査 第3回 集中 3:発表と討議, まとめ |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382(久野) 東京キャンパス 537 電話 03-3942-6455(柴田) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究姿勢を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS420 健康開発プログラム論特講 OATS421 健康開発プログラム論演習1 OATS422 健康開発プログラム論演習2 OATS464 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ OATS465 ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |

| | |
|-------|------------------|
| キーワード | アクティブラーニング, 行動変容 |
|-------|------------------|

| | |
|-------------------------|---|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション研究方法論V |
| 科目番号 | OATS465 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也, 柴田 愛 |
| 授業概要 | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。 |
| 備考 | 9月末修了予定者用 01EK417と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | 第1回 文献レビュー、研究テーマの設定 第2回 研究計画タイムマネジメント 第3回 研究方法論(調査研究法、質的研究法)、データ分析法 第4回 実際の結果の分析指導(1) 第5回 実際の結果の分析指導(2) 第6回 研究成果のプレゼンテーション法 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分-18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382(久野) 東京キャンパス 537 電話 03-3942-6455(柴田) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | |
| 他の授業科目との関連 | OATS410 ヘルスプロモーション論特講 OATS411 ヘルスプロモーション論演習1 OATS412 ヘルスプロモーション論演習2 OATS413 ヘルスプロモーション論実習 |

| | |
|----------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | OATS420 健康開発プログラム論特講 OATS421 健康開発プログラム論演習1 OATS422 健康開発プログラム論演習2 OATS423 健康開発プログラム論実習 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ヘルスプロモーション, 研究計画, データ分析, プレゼンテーション |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論特講 |
| 科目番号 | OATS510 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋A金7,8,集中; 秋B集中 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 01EK501と同一。 11/6, 12/4 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。 |
| 授業計画 | 第1回 ストレスマネジメント研究に関する倫理について 第2回 ストレスとは (セリエのストレス、汎適応症候群) ストレスと生体反応 (脳の機能、自律神経系、免疫系、内分泌系) 第3回 ラザルスの心理学的ストレスモデル ストレスコーピング (問題中心コーピング、情緒中心コーピング) 第4回 ストレスと関連する個人的要因 (気質と性格、自己効力感、首尾一貫感覚、レジリエンス) 第5回 ストレス関連障害 (心身症、適応障害、うつ病、不安障害) 第6回 生活の場(家庭、学校、職場、地域社会)とメンタルヘルス 疾病関連ストレス (疾病ストレス、医療・介護現場のストレス) 第7回 高齢社会のメンタルヘルス (高齢者のうつ、介護ストレス、介護予防、認知症) 第8回 生活習慣とメンタルヘルス (睡眠、栄養、運動、生活習慣病) 第9回 ストレスマネジメント (自律訓練、リラクゼーション、瞑想、ソーシャルスキルトレーニング) 第10回 認知と行動の変容 (認知行動療法、マインドフルネス、森田療法) |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(50%), レポート評価 (50%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| び授業外における学修方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>オリジナル資料を配布する</p> <p>参考図書</p> <p>小杉正太郎著:「ストレス心理学」(川島書店)2009</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>火曜日 17 時~18 時</p> <p>東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453</p> <p>筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971</p> <p>mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>OATS511 ストレスマネジメントシステム論演習1</p> <p>OATS512 ストレスマネジメントシステム論演習2</p> <p>OATS513 ストレスマネジメントシステム論実習</p> <p>OATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ</p> <p>OATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ストレス, メンタルヘルス, ストレスマネジメント, ストレス対処, ストレス耐性, うつ病, 介護予防, 認知症, 生活習慣, 心理療法 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論演習1 |
| 科目番号 | OATS511 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、具体的な事例を取り上げ権衡的な考察を行いながら検討する。この分析をもとに、学生の現職経験から得られる実践的課題を整理し、その課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。 |
| 備考 | 01EK512と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。 |
| 授業計画 | 第1回 ストレスマネジメントの研究に関する倫理について 第2回 発表と討議 (ストレス概念について) 第3回 発表と討議 (ストレスと生体反応) 第4回 発表と討議(ストレスと生活習慣) 第5回 発表と討議 (ストレス関連障害) 第6回 発表と討議 (性格と健康) 第7回 発表と討議 (ストレスコーピングについて) 第8回 発表と討議 (ソーシャルスキルについて) 第9回 発表と討議 (ストレスマネジメント実践について) 第10回 総合討論 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(50%)、授業後のレポート(50%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト とくに指定しない 参考図書 小杉正太郎著:「ストレス心理学」(川島書店)2009 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点) | 積極的に授業態度を望みます。 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 等) | |
| 他の授業科目との関連 | OATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 OATS512 ストレスマネジメントシステム論演習2 OATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 OATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ OATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ストレス, ストレスコーピング, ソーシャルスキル, 生活習慣, 生体反応 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論演習2 |
| 科目番号 | OATS512 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB金7,8 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、講師陣を前にして各自の研究計画を発表する。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。 |
| 備考 | 01EK513と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。 |
| 授業計画 | 第1回 ストレスマネジメント研究に関する倫理について 第2回 発表と討議 (小児・青年期のストレスマネジメント) 第3回 発表と討議 (老年期のストレスマネジメント) 第4回 発表と討議 (職域のストレスマネジメントI) 第5回 発表と討議 (職域のストレスマネジメントII) 第6回 発表と討議 (ストレスと脳・神経機能) 第7回 発表と討議 (心身症とうつのストレスマネジメント) 第8回 発表と討議 (ストレスマネジメント研究の現状と課題) 第9回 発表と討議 (ストレスマネジメント実践研究) 第10回 総合討論 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性50%、授業後のレポート50% 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト とくに指定しない 参考図書 小杉正太郎著:「ストレス心理学」(川島書店)2009 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な参加第度を望みます。 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | OATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 OATS511 ストレスマネジメントシステム論演習1 OATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 OATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ OATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ストレスマネジメント, 職域, 老年期, うつ, 脳機能 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論実習 |
| 科目番号 | OATS513 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。学生の現職経験から導かれるストレスマネジメントの具体的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、また課題解決を志向したシステム開発について実習する。 |
| 備考 | 01EK505と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。 |
| 授業計画 | 第1回 集中 1 リワークデイケアプログラムの計画立案 第2回 集中 1 リワークデイケアの実践 第3回 集中 1 リワークデイケア実習の総合討論 第4回 集中 2 ストレスマネジメント研究の分析 第5回 集中 2 ストレスマネジメント研究の課題の抽出 第6回 集中 2 ストレスマネジメント研究の批判的吟味 第7回 集中 3 ストレス・マネジメント実践の計画立案 第8回 集中 3 ストレス・マネジメント実践 第9回 集中 3 ストレス・マネジメント実践の総合討論 |
| 成績評価方法 | 実習参加の積極性(50%), レポート評価 (50%) 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト オリジナル資料を配付する 参考図書 特に指定しない |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な授業態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 OATS511 ストレスマネジメントシステム論演習1 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習2 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | リワーク, デイケア, ストレスマネジメント |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | コミュニティメンタルヘルス論特講 |
| 科目番号 | OATS520 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春AB木7,8 |
| 担当教員 | 辻 大士 |
| 授業概要 | 社会的要因や国・地域の環境とメンタルヘルスとの関わりを学習する。さらに、それらの要因について、現状把握 課題設定 手がかり発見 実践・介入 効果検証 プログラム改善を円滑に進める、一連のマネジメントサイクルを学習する。 |
| 備考 | 01EK521と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | メンタルヘルスに関連する社会的要因や国・地域環境に関する知識を習得し、それらの改善を目指すためのマネジメントサイクル技法を習得する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 社会疫学とは (健康の社会的決定要因、ソーシャル・キャピタル、ポピュレーション戦略)</p> <p>第2回 社会経済的状況とメンタルヘルス (健康格差、所得、教育歴、国際比較研究)</p> <p>第3回 ライフコースとメンタルヘルス (子どもの貧困、貧困の連鎖、ライフコース・アプローチ)</p> <p>第4回 労働環境とメンタルヘルス (職業性ストレス、6つの理論モデル、雇用政策)</p> <p>第5回 地域のスポーツ環境とメンタルヘルス (スポーツを集団で行う効果、ソーシャル・ネットワーク、マルチレベル分析)</p> <p>第6回 建造環境とメンタルヘルス (ウォーカビリティ、緑地環境、スタジアム・アリーナ)</p> <p>第7回 被災地とメンタルヘルス (被災によるPTSD・抑うつ、避難所生活、災害レジリエンス)</p> <p>第8回 マネジメントサイクル1 (見える化、課題設定、手がかり発見)</p> <p>第9回 マネジメントサイクル2 (実践・介入、効果検証、プログラム改善)</p> <p>第10回 まとめ</p> |
| 成績評価方法 | <p>授業参加の積極性(50%)、レポート評価(50%)</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>オリジナル資料を配布する</p> <p>参考図書</p> <p>リサ・F・パークマン, 他 編(高尾総司, 他 監訳)社会疫学<上>・<下>, 2017</p> |
| オフィスアワー等(連絡) | 火曜日17時~18時 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 先含む) | 東京キャンパス 03-3942-6459 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS521 コミュニティメンタルヘルス論演習1 0ATS522 コミュニティメンタルヘルス論演習2 0ATS523 コミュニティメンタルヘルス論実習 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | なし |
| キーワード | メンタルヘルス, 社会疫学, 健康格差, ポピュレーション戦略, 地域づくり, 介護予防, 認知症, ライフコマース, マネジメントサイクル, 被災地支援 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業科目名 | コミュニティメンタルヘルス論演習1 |
| 科目番号 | OATS521 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 辻 大士 |
| 授業概要 | メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その要因の改善を図るための具体的なマネジメント方略を学習することで、各現場への実践・介入の手がかりを得る。コミュニティメンタルヘルス論特講の内容と自身の興味に基づき研究構想や計画を立案し、その研究を進める上での情報収集、データ収集、統計解析、考察、研究発表についての実践的な技能について演習する。 |
| 備考 | |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因に関する最新情報収集、基礎知識構築、課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究遂行能力および問題解決力を高める。 |
| 授業計画 | 第1回 疫学研究に関する倫理について 第2回 発表と討議(情報検索) 第3回 発表と討議(論文読解1: 抄録、背景、方法) 第4回 発表と討議(論文読解2: 結果、考察) 第5回 発表と討議(統計解析) 第6回 発表と討議(プレゼンテーションスキル) 第7回 発表と討議(健康格差研究について) 第8回 発表と討議(社会疫学について) 第9回 発表と討議(介護予防・認知症予防について) 第10回 総合討論 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(50%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(30%)により評価する。 評価基準 (A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考図書:近藤克則.研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」(医学書院)2018 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日17時~18時 東京キャンパス 03-3942-6459 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 OATS522 コミュニティメンタルヘルス論演習2 OATS523 コミュニティメンタルヘルス論実習 OATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論IV |

| | |
|----------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | OATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | なし |
| キーワード | メンタルヘルス, 健康格差, 社会疫学, 地域づくりによる介護予防・認知症予防, ライフコースアプローチ |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業科目名 | コミュニティメンタルヘルス論演習2 |
| 科目番号 | OATS522 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋AB木7,8 |
| 担当教員 | 辻 大士 |
| 授業概要 | 学生が興味をもつ、メンタルヘルスやその社会的決定要因、健康格差に関するテーマで順に発表し、討議しあうことで学習を深める。国、地域、職域、学校などの各集団における、抱える課題の実態や解決方略についての先行文献をレビューし、それらを踏まえた各自の研究計画を発表する。それにより、新規性、社会的意義、実現可能性を兼ねそろえた優れた研究テーマを設定し、その遂行について演習する。 |
| 備考 | |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因に関する最新情報収集、基礎知識構築、課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究遂行能力および問題解決力を高める。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション(演習の目標、進め方) 第2回 発表と討議(先行文献レビュー1) 第3回 発表と討議(先行文献レビュー2) 第4回 発表と討議(先行文献レビュー3) 第5回 発表と討議(先行文献レビュー4) 第6回 発表と討議(研究計画討議1) 第7回 発表と討議(研究計画討議2) 第8回 発表と討議(研究計画討議3) 第9回 発表と討議(研究計画討議4) 第10回 総合討論 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(50%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(30%)により評価する。 評価基準 (A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考図書:近藤克則.研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」(医学書院)2018 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日17時~18時 東京キャンパス 03-3942-6459 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 OATS521 コミュニティメンタルヘルス論演習1 OATS523 コミュニティメンタルヘルス論実習 OATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論IV |

| | |
|----------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | OATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| キーワード | メンタルヘルス, 健康格差, 社会疫学, 地域づくりによる介護予防・認知症予防, ライフコースアプローチ |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名 | コミュニティメンタルヘルス論実習 |
| 科目番号 | OATS523 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年随時 |
| 担当教員 | 辻 大士 |
| 授業概要 | メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その改善を図るための基礎知識と実践的技能を学ぶ。また、学生の現職経験から導かれる実践的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、それに基づく課題解決方略の計画、実践、評価について実習する。 |
| 備考 | 01EK525と同一。 |
| 授業方法 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンストとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 現場での健康問題や社会問題の解決を目指すマネジメントサイクルの回し方や、その効果評価における実践的技能を学ぶ。 |
| 授業計画 | 第1回 集中1: オリエンテーション、計画立案 第2回 集中2: フィールド調査 第3回 集中3: 発表と討議、まとめ |
| 成績評価方法 | 実習状況(70%)、レポート(30%)により評価する 評価基準 (A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスパワー等(連絡先含む) | 火曜日17時~18時 東京キャンパス 03-3942-6459 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 OATS521 コミュニティメンタルヘルス論演習1 OATS522 コミュニティメンタルヘルス論演習2 OATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ OATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて任用する。 |
| キーワード | 地域づくりによる介護予防, 地域マネジメント支援, PDCAサイクル |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ |
| 科目番号 | OATS564 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋ABC随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。 |
| 備考 | 01EK516と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション、研究倫理について 第2回 発表と討議及び指導 各自の実践的研究課題に対応した研究テーマの設定法 第3回 発表と討議及び指導 研究計画 第4回 発表と討議及び指導 研究方法論 調査研究法、調査票の作成法 第5回 発表と討議及び指導 研究方法論 介入研究法、研究デザイン 第6回 発表と討議及び指導 質的研究 質的分析 第7回 発表と討議及び指導 量的分析法 ノンパラメトリック検定、パラメトリック検定 第8回 発表と討議及び指導 研究データの分析法と解釈法 第9回 発表と討議及び指導 研究成果のプレゼンテーション法 第10回 成果発表と総合討論 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 随時指定する |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考図書 SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで/小塩真司 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 (水上) 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453(水上) 水上 勝義 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な授業態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 0ATS511 ストレスマネジメントシステム論演習1 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習2 0ATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 0ATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 0ATS521 コミュニティメンタルヘルス論演習1 0ATS522 コミュニティメンタルヘルス論演習2 0ATS523 コミュニティメンタルヘルス論実習 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ストレスマネジメント, 研究テーマ, 研究計画, 研究方法, 分析, プレゼンテーション |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム研究方法論V |
| 科目番号 | OATS565 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春ABC随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする。修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。 |
| 備考 | 9月末修了予定者用 01EK517と同一。 |
| 授業方法 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーションと研究倫理について 第2回 発表と討議及び指導 各自の実践的研究課題に対応した研究テーマの設定法 第3回 発表と討議及び指導 研究計画 第4回 発表と討議及び指導 研究方法論 調査研究法、調査票の作成法 第5回 発表と討議及び指導 研究方法論 介入研究法、研究デザイン 第6回 発表と討議及び指導 質的分析法 第7回 発表と討議及び指導 量的分析法 ノンパラメトリック検定、パラメトリック検定 第8回 発表と討議及び指導 研究データの分析法と解釈法 第9回 発表と討議及び指導 研究成果のプレゼンテーション法 第10回 総合討論 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 随時指定する |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考文献 SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで/小塩真司 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 (水上) 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453(水上) 水上 勝義 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な授業態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 OATS511 ストレスマネジメントシステム論演習1 OATS512 ストレスマネジメントシステム論演習2 OATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 OATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 OATS521 コミュニティメンタルヘルス論演習1 OATS522 コミュニティメンタルヘルス論演習2 OATS523 コミュニティメンタルヘルス論実習 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 研究テーマ。研究計画，研究方法，分析法，プレゼンテーション |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 生活機能増進法論特講 |
| 科目番号 | OATS611 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋C水7,8 |
| 担当教員 | 向井 直樹, 白木 仁, 竹村 雅裕, 鎌田 浩史, 福田 崇 |
| 授業概要 | 身体特性を把握し、運動機能の向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。 |
| 備考 | 01EK621と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 身体特性を把握し、運動機能の向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする |
| 授業計画 | <p>第1回 運動と骨代謝 骨代謝の基本と運動の影響について：向井 (骨塩量、骨密度、骨成長、男・女性ホルモン、骨粗鬆症、骨軟化症)</p> <p>第2回 老化と骨代謝 骨代謝と老化について：向井 (骨塩量、骨密度、骨成長、男・女性ホルモン、骨粗鬆症、骨軟化症)</p> <p>第3回 運動療法の基礎 運動機能の評価方法の基礎知識について：竹村 (徒手筋力テスト、歩容評価、単純・複合運動、関節拘縮)</p> <p>第4回 運動処方法の基礎 等尺性・等長性運動などの基礎知識：竹村 (徒手筋力テスト、歩容評価、単純・複合運動、関節拘縮)</p> <p>第5回 運動処方と強化 筋の柔軟性の維持と筋力の強化について：白木 (段階的トレーニング、腰割運動)</p> <p>第6回 運動処方と強化 股関節・骨盤を中心に講義する：白木 (スクワット運動)</p> <p>第7回 運動実践 実際の運動現場における日々のコンディション、評価について言及する：福田 (筋のコンディショニング)</p> <p>第8回 運動実践 実際の運動現場における日々のコンディション、評価について言及する：福田 (関節のコンディショニング)</p> <p>第9回 身体特性の評価 身体特性の評価方法について講義する：鎌田 (メディカルチェック、アライメント)</p> <p>第10回 身体特性の評価 身体特性と傷害についても言及する：鎌田 (関節弛緩性、関節可動域・不安定性)</p> |
| 成績評価方法 | <p>レポートによる</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学 南光堂</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考図書 プライマリケア スポーツ医学 理論と実践 西村書店 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 骨, 筋, 関節, 運動, トレーニング, コンディショニング |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 健康増進基礎論特講 |
| 科目番号 | OATS612 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春C金7,8 |
| 担当教員 | 大森 肇, 足立 和隆, 國部 雅大, 松井 崇, 中田 由夫 |
| 授業概要 | 健康増進の基礎的な知識、理解力、研究能力を高めるためにヒトの心身の形態、機能の自然科学的な知識、研究成果を学ぶ。心身の健康を維持・増進するためには運動、休養、栄養などの知識、研究が必要である。本授業では運動が心身に与える影響を運動解剖学的、スポーツ生理学、生化学、筋生理学、疫学の観点からそれぞれの専門家が概説し健康増進の科学的理解と研究に資することを目的とする。 |
| 備考 | 01EK622と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 健康増進の基礎的な知識、理解力、研究能力を高めるためにヒトの心身の形態、機能の自然科学的な知識、研究成果を学ぶ |
| 授業計画 | <p>第1回 運動と代謝：大森 (急性運動に伴う応答、慢性運動による適応)</p> <p>第2回 代謝疾患に対する運動療法：大森 (肥満、高脂血症、糖尿病)</p> <p>第3回 運動と知覚：國部 (知覚と運動の相互作用、視覚心理)</p> <p>第4回 運動と脳：國部 (運動と脳、脳の可塑性、注意、認知機能)</p> <p>第5回 持久性能と脳：松井 (長時間運動、グリコーゲン、中枢疲労)</p> <p>第6回 認知機能と運動：松井 (適度な運動、軽運動、海馬、前頭前野)</p> <p>第7回 運動と健康：中田 (疫学、死亡率、身体活動ガイドライン)</p> <p>第8回 生活習慣病と体重管理：中田 (メタボリックシンドローム、食事、運動)</p> <p>第9回 運動器(骨格系、筋系、神経系)の基礎：足立 (運動の起こるしくみ、骨の役割、筋収縮、運動神経)</p> <p>第10回 ヒトの特性(進化、成長、加齢)：足立 (ヒトの進化、直立二足歩行、省エネ生物)</p> |
| 成績評価方法 | <p>レポートにより評価する</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考図書 随時紹介する |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | つくばキャンパス A302 電話 029-853-2676(大森) 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 健康社会論 |
| 科目番号 | OATS613 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春C集中 |
| 担当教員 | 武田 文, 門間 貴史 |
| 授業概要 | 地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する乳幼児期~高齢期までの各ライフステージにおける健康問題を、家庭・地域・職場など生活領域別にとりあげ、各問題と社会環境要因との関わりを論じる。そして問題解決に必要な社会的支援策のあり方について、公衆衛生の観点から解説する。 |
| 備考 | 集中講義9:30~ 01EK623と同一。 7/3,7/10 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する |
| 授業計画 | 第1回 健康に関わる概念と理論 (1) : 武田 (健康, 予防, ICF, 医学モデル, 社会モデル) 第2回 健康に関わる概念と理論 (2) : 武田 (疾病生成論, 健康生成論, ヘルスプロモーション) 第3回 健康課題の現状 (1) : 門間 (少子高齢社会, 疾病構造と死亡構造) 第4回 健康課題の現状 (2) : 門間 (健康寿命, 生活習慣, 精神健康) 第5回 保健医療政策 : 門間 (健康日本 21, 一次予防, 特定健診) 第6回 地域保健 (1) : 門間 (老人保健サービス, 介護保険サービス) 第7回 地域保健 (2) : 門間 (中高齢者の健康づくり, 身体活動と健康) 第8回 地域保健 (3) : 武田 (健やか親子 21, 育児支援, 母子保健事業) 第9回 産業保健 (1) 武田 (労働安全法, 労働安全衛生法, 健康職場モデル) 第10回 産業保健 (2) : 武田 (働き方と健康, ストレスとメンタルヘルス対策) |
| 成績評価方法 | 課題レポートによる 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付 | テキスト |

| | |
|---------------------------------|--|
| 資料等 | <p>新・生き方としての健康科学. 山崎喜比古監修、朝倉隆司編、有信堂高文社、2017</p> <p>参考図書 授業中に適宜資料を配布する。</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>月曜日 11:30-12:00</p> <p>つくばキャンパス D509 電話 029-853-3996(武田) Email:takeda.fumi.fe@u.tsukuba.ac.jp</p> <p>東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | <p>無</p> |
| キーワード | <p>健康, ヘルスプロモーション, 保健政策</p> |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康支援の理論と実践 |
| 科目番号 | OATS614 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春C木7,8 |
| 担当教員 | 大森 肇, 坂入 洋右, 木塚 朝博, 麻見 直美, 大藏 倫博 |
| 授業概要 | 国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的な事例について講義する。 |
| 備考 | 01EK624と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 言語発達に及ぼす模倣運動の影響：大森 (言語発達 模倣運動 ブローカ野)</p> <p>第2回 心を育て頭を活かす上手な身体の使い方：大森 (環境 抗ストレス 加齢 認知機能)</p> <p>第3回 身心のセルフコントロール法の理論と実際：坂入 (自律訓練法、呼吸法、気分の自己調整)</p> <p>第4回 カウンセリングの理論と実際：坂入 (健康心理学、心理療法、力動・認知行動)</p> <p>第5回 幼少年期における体育活動と運動遊び：木塚 (滞育症候群、小児肥満、ヨンマ、意欲)</p> <p>第6回 発育発達期におけるパフォーマンスの測定評価：木塚 (デュアルタスク、リテラシー、コンピテンシー)</p> <p>第7回 各ライフステージに於ける食生活サポートの実際：麻見 (骨を Key Word として)1</p> <p>第8回 各ライフステージに於ける食生活サポートの：麻見 (骨を Key Word として)2</p> <p>第9回 肥満・メタボリックシンドローム予防の理論と実践：大藏 (内臓脂肪、減量、運動実践、食事改善)</p> <p>第10回 高齢者における介護予防の理論と実践：大藏 (生活機能、転倒予防、認知症予防)</p> |
| 成績評価方法 | <p>レポートによる</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p> <p>参考図書</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 中高年者の疾病予防・改善のための運動プログラム 田中・牧田 ナップ 2010 中高年者の元気長寿のための運動プログラム 田中ほか ナップ 2010 健康づくりのための体力測定評価法 田中ほか 金芳堂 2007 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | つくばキャンパス A302 電話 029-853-2676(大森) 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | ヒューマン・ケア科学概論 |
| 科目番号 | OATS615 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋B金7,8 |
| 担当教員 | 近藤 正英, 柳 久子, 森田 展彰, 水野 智美, 伊藤 智子 |
| 授業概要 | 人を支援する課題に向けて、高齢者ケアリング学・社会精神保健学・生活支援学・保健医療政策学・福祉医療学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・福祉学・保健学・看護学の理論と実践を学習する。実学としてのヒューマン・ケア科学について、その理論とアプローチの効果を概説する。また、子どもから高齢者の健康生活上の問題や虐待、生活リズムの変調、うつや自殺に関連する事項をとりあげ、人々の心身の安寧を脅かす現象を概説する。さらに障害福祉について諸外国の現状を比較すると共に、保健医療政策への応用としての経済学や今日的な課題についての生命倫理を講義する。 |
| 備考 | 01EK625と同一。 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 人を支援する課題に向けて、生活支援学・福祉医療学・社会精神保健学・ヘルスサービスリサーチ・保健医療政策学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・看護学・保健学・福祉学の理論と実践を学習する。 |
| 授業計画 | 第1回 ヒューマン・ケア科学概論オリエンテーション、ヒューマン・ケア経済学：近藤（経済学、医療、政策） 第2回 “ 第3回 保健・医療・福祉分野における生命倫理：柳（出生前診断、遺伝子検査ビジネス、リビングウィル、臓器移植） 第4回 “ 第5回 子ども虐待・DV への介入と援助：森田（子ども、虐待、DV、介入、ケア） 第6回 “ 第7回 高齢者ケアとヘルスサービスリサーチ：伊藤（高齢者介護、介護者支援、介護保険、二次データ分析） 第8回 “ 第9回 バリアフリーと QOL の向上、各国の障害福祉の実情：水野（バリアフリー、障害のある者、QOL、障害福祉） 第10回 “ |
| 成績評価方法 | 1. 授業参加の積極性を評価する、2. レポートの成績を評価する（授業参加20%、レポート80%） 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に定めない |

| | |
|---------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 参考図書 ヒューマン・ケア科学への招待、他、授業の進度に応じて紹介する |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 随時 電子メール等で事前に連絡 つくばキャンパス 総合研究棟 D710 (近藤) 電話 029-853-5904 メール mkondo@md.tsukuba.ac.jp 近藤 正英 mkondo at md.tsukuba.ac.jp http://www.hcs.tsukuba.ac.jp/09_hoken.html#4 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 経済学, 医療, 政策, 出生前診断, 遺伝子検査ビジネス, リビングウィル, 臓器移植, 子ども, 虐待, DV, 介入, ケア, 高齢者介護, 介護者支援, 介護保険, 二次データ分析, パリアフリー, 障害のある者, QOL, 障害福祉 |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康統計学特講 |
| 科目番号 | OATS616 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春B集中 |
| 担当教員 | 大藏 倫博 |
| 授業概要 | ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析について理解することを目標とする。統計学の初心者の理解を促進するために、ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析などスポーツ健康統計学の基礎について、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK607と同一。 6/5,6/19 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、期待値、相関分析、データ収集の方法について理解する |
| 授業計画 | 第1回 ヒストグラム 第2回 正規分布 第3回 平均値と標準偏差 第4回 期待値 第5回 前半のまとめ 第6回 相関分析の概要 第7回 相関分析のためのデータ収集 第8回 相関分析のための散布図の作成 第9回 相関係数の算出方法 第10回 相関分析のまとめ |
| 成績評価方法 | 演習課題の成績によって評価する 評価基準(A+, A, B, C又はD) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に定めない 参考図書 1) 市原清志:バイオサイエンスの統計学, 南江堂 (テキスト) 2) 大澤清二:生活統計の基礎知識, 家政教育社 3) 松浦義行:体育・スポーツ科学のための統計学, 朝倉書店 4) 辻 新六他:アンケート調査の方法, 朝倉書店 5) 田中 敏他:教育・心理統計と実験計画法, 教育出版 6) 豊田秀樹他:原因をさぐる統計学, 講談社ブルーバックス 7) 出村慎一 監修、山下秋二 佐藤進 編著:健康・スポーツのための調査研究法, 杏林書院 |

| | |
|---------------------------------|--|
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 月曜日の 17 時~18 時 つくばキャンパス A608 電話 029-853-2733 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | OATS651 スポーツ健康統計基礎論 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | ヒストグラム, 正規分布, 平均値, 標準偏差, 相関分析 |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 質的研究基礎論 |
| 科目番号 | OATS617 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋A集中 |
| 担当教員 | 橋爪 祐美 |
| 授業概要 | 質的研究の基本的理解として、発展の背景・経緯等を学習する。今回は質的研究の中でグラウンデッド・セオリーを取り上げ、受講者の課題等をもとにビギナーレベルのデータ収集および分析法について学習する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~17:00 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK631と同一。 10/16, 10/23 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標(学修成果) | (1)高齢者ケアリング学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。 (2)高齢者ケアリング学に関わる研究手法を概観することができる。 (3)質的研究法のグラウンデット・セオリー法の概要を理解できる。 (4)グラウンデット・セオリー法について、ビギナーレベルでインタビューを理解し、試行できる。 (5)グラウンデット・セオリー法について、ビギナーレベルのデータ分析を手掛けることができる。 (6)分析結果について発表し、フィードバックを得ることが出来る。 |
| 授業計画 | 第1日 1)ケア学に関わる研究手法と質的研究について概説 2)グループワーク:学生間でできるインタビューの計画 (テーマ、対象検討、質問応答) 第2日 1)グラウンデッド・セオリー法の解説 2)インタビュー計画発表、担当教員よりフィードバック 3)グループに分かれてインタビュー、逐語録作成、分析 4)3)の発表と担当教員からのフィードバック |
| 成績評価方法 | 1評価方法:授業中に提示するプロジェクト(レポート)の講義時間終了時間内の提出。インタビューとデータ分析結果のプレゼンテーションとディスカッションの内容。 2レポート提出40%、プレゼンテーション30%、ディスカッションの内容30% 3評価基準(A+, A, B, C又はD)。 |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 1. 「看護研究入門」エルゼビア・ジャパン(2007),The practice of Nursing Research. Saunders. 5th edition. 2004 2. 「質的研究の基礎」医学書院(1999) 3. Basics of Qualitative Research: Grounded Theory Procedures and Techniques. Sage Publications. 1999 4. 高齢者ケアリング学研究会誌Vol.2, No.1, 2011:初心者のための質的研究ナビゲーション(連載)Journal of Gerontological Nursing and Caring Research Vol.2, No.1, 2011~ |

| | |
|--|--|
| <p>オフィスアワー等(連絡先含む)</p> | <p>筑波キャンパス 総合研究棟D420、水曜日、14:00-16:00随時(それ以外の日時を希望する場合は、前もってe-mailで連絡のこと) 橋爪祐美 hashizume.yumi.gu@u.tsukuba.ac.jp 東京キャンパス連絡先 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| <p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p> | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| <p>他の授業科目との関連</p> | |
| <p>ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)</p> | <p>無</p> |
| <p>キーワード</p> | |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康統計基礎論 |
| 科目番号 | OATS651 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 夏季休業中集中 |
| 担当教員 | 田邊 解 |
| 授業概要 | スポーツ・ヘルスプロモーション分野で収集される定量的・定性的データを統計的に分析する基礎知識を学習する。また、科学論文作成を想定して、データの収集から整理、分析、及び解釈までの一連の手順を演習する。 |
| 備考 | 集中講義10:00~ 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK611と同一。 9/11,9/25 |
| 授業方法 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | スポーツ・健康分野の研究で活用する統計の基礎を学習し、統計データの読解力、適切な統計手法を選択する能力、及び統計解析ソフトを利用したデータ分析能力を養う。 |
| 授業計画 | 統計の必要性と重要性 【基礎編1】データを読む、理解する 【基礎編2】適切な統計手法を選ぶ 【基礎編3】基本的な統計手法を理解する1 【基礎編4】基本的な統計手法を理解する2 【応用編1】データを集める、整理する 【応用編2】データを統計的に比較分析する1 【応用編3】データを統計的に比較分析する2 【応用編4】統計分析データを可視化する |
| 成績評価方法 | 受講状況、実技試験、レポート |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 教科書 出村慎一、西嶋尚彦、佐藤進 健康・スポーツ科学のためのSPSSによる多変量解析入門、杏林書院 参考図書 1)市原清志 バイオサイエンスの統計学:正しく活用するための実践理論、南江堂 2)佐藤進、山次俊介、長澤吉則 健康・スポーツ科学のためのSPSSによる統計解析入門、杏林書院 3)石村貞夫 SPSSによる分散分析と多重比較の手順、東京図書 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 授業前後に行う 東京キャンパス 専攻事務室:電話03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます |
| 他の授業科目との関連 | OATS616 スポーツ健康統計学特講 |

| | |
|---|-------|
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングア シスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 統計データ |